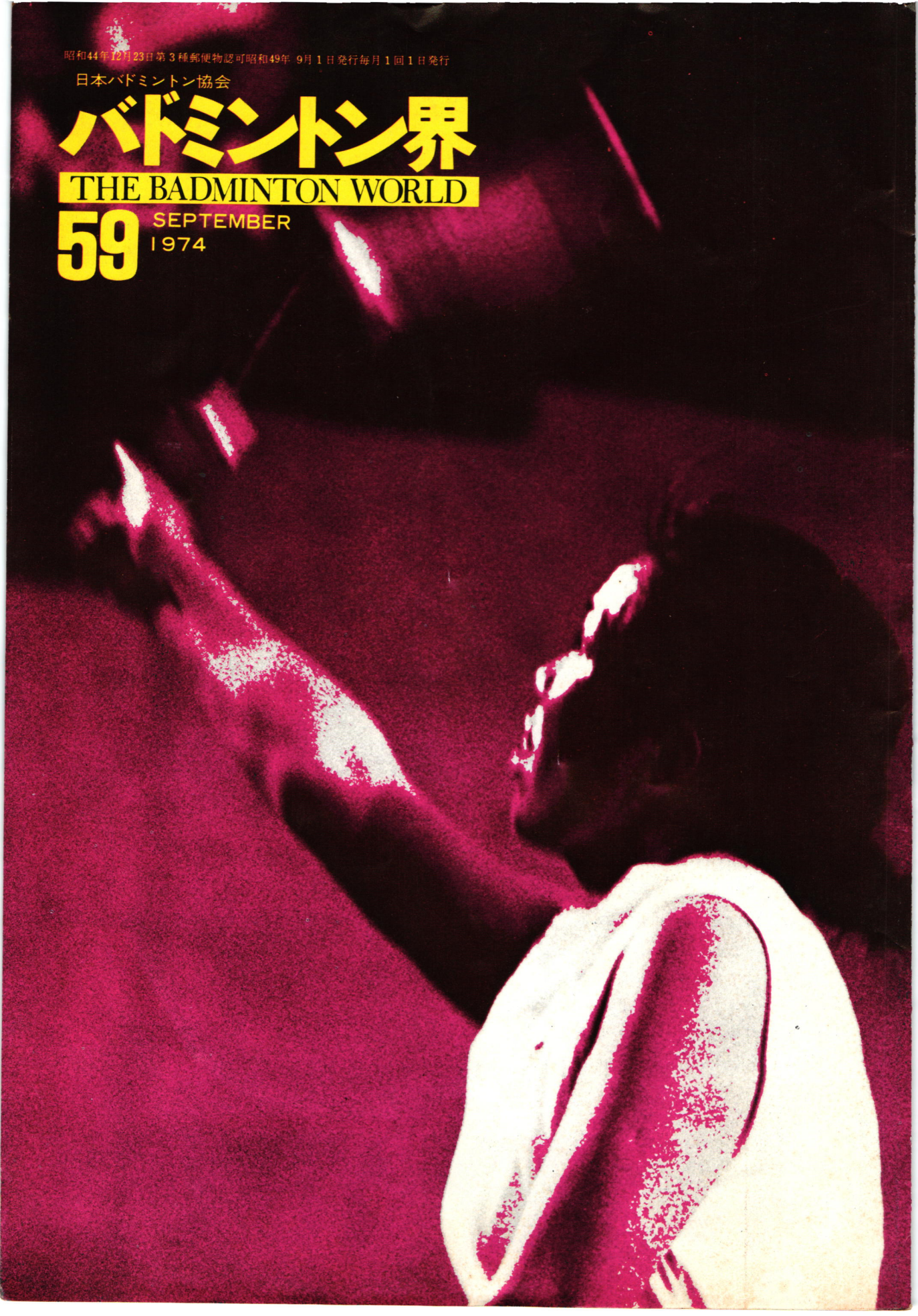
昭和44年12月23日第3種郵便物認可昭和49年 9月1日発行毎月1回1日発行

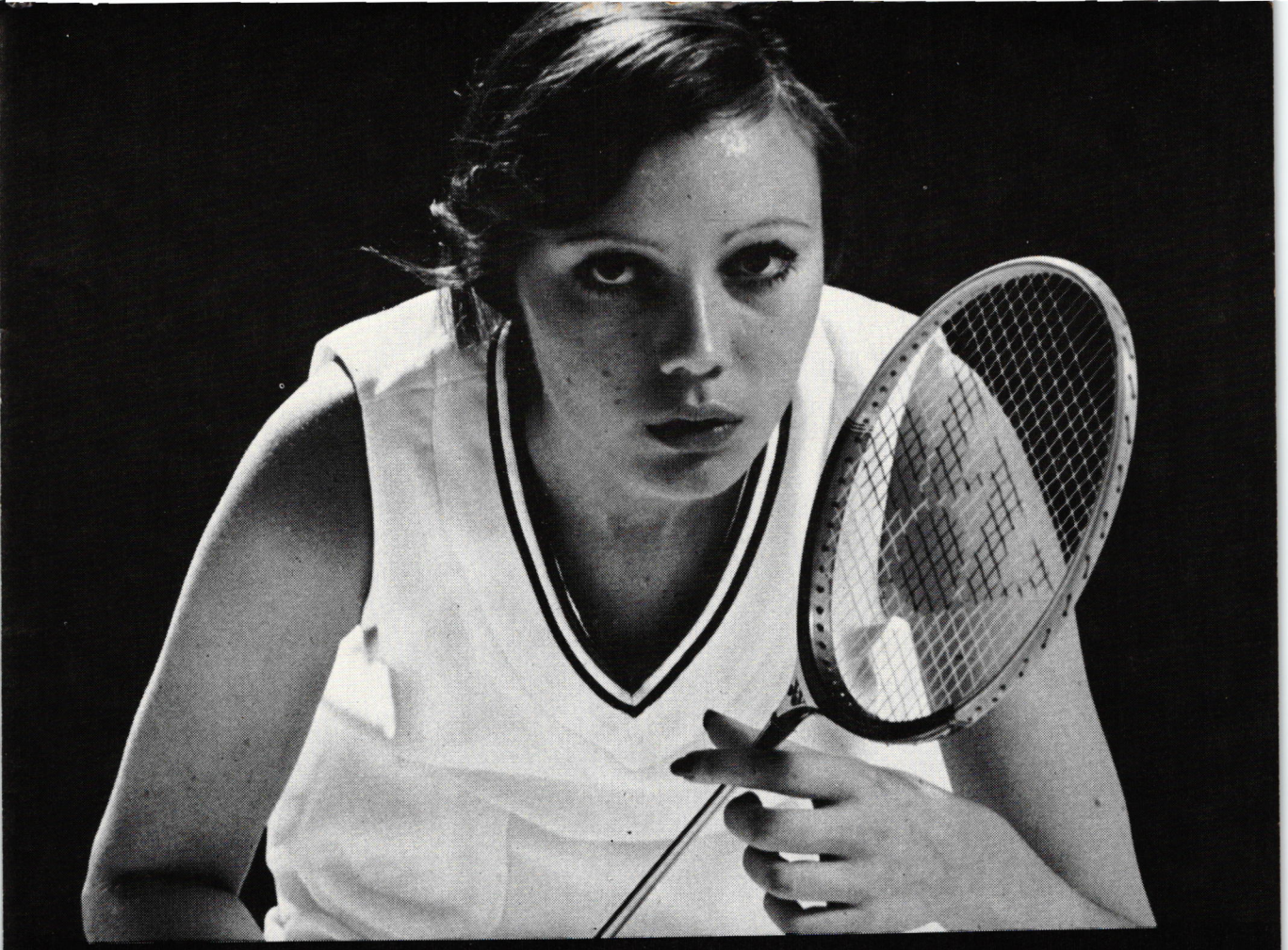
日本バドミントン協会

バドミントン界

THE BADMINTON WORLD

59 SEPTEMBER 1974





国籍は世界。ヨネックス。

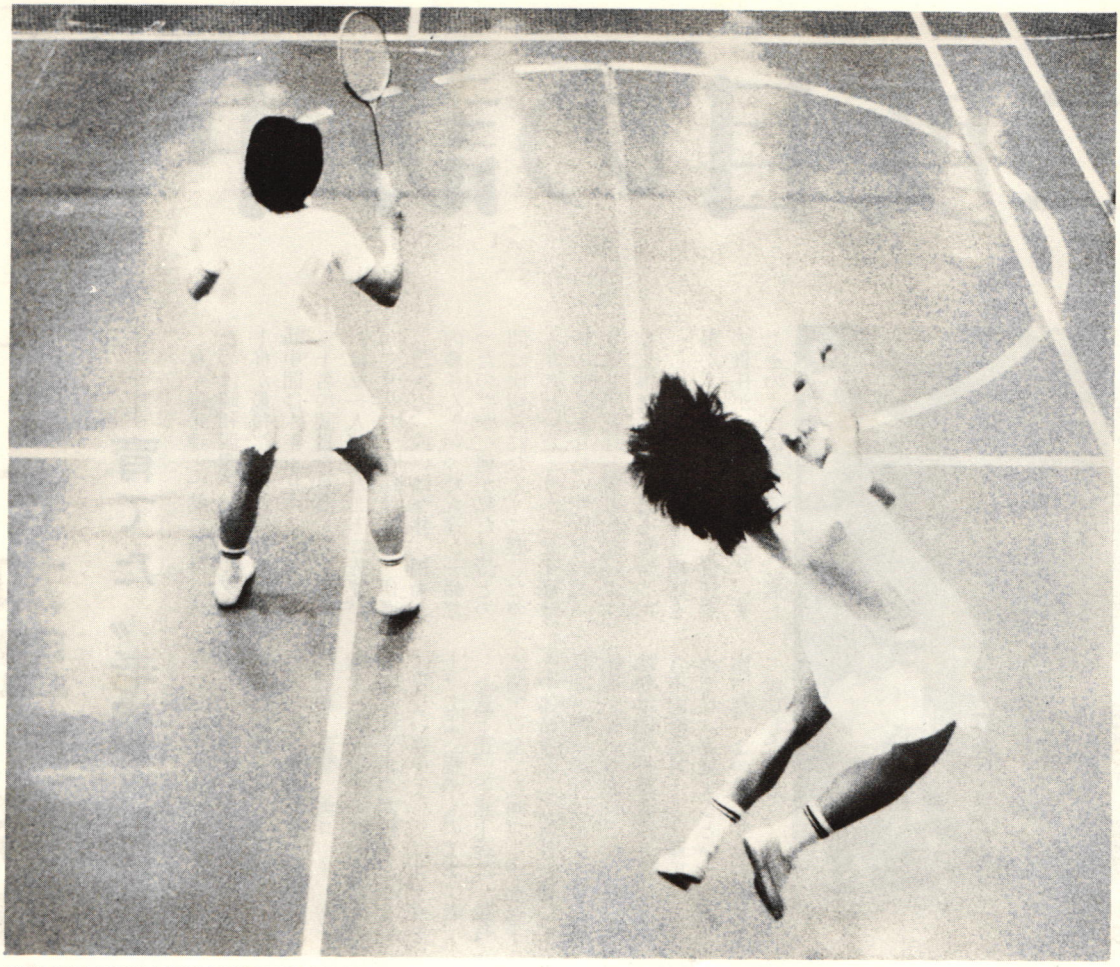
ヨネヤマが
社名変更しました。

世界の一流プレイヤーに使われ、世界のコートで熱い視線を浴びてきたヨネヤマが、名前を変えました。いま、こころも新たにヨネックス。世界のレベルを決めるブランドに、ふさわしい名前です。グローバルな響きです。バドミントンを科学の目でとらえるヨネヤマの、力強い変身。ヨネックス。この5文字が、ことばの違いを越え、国籍を越えて、ひとびとの心をひとつに結びます。すでにもう、世界のひとたちはかってのヨネヤマをヨネックスと、そう呼びはじめました。さあ、あなたも。

No.9000

ハイステンレス
￥4,800(フレーム・ケース付)
￥5,400(ヨネックスシープ張上・ケース付)

YONEX



バドミントン界

〈49年9月号〉

★第二回訪中友好試合詳報
友好深めた二度目の訪中……2
「IF加盟」努力を確約……3
単は中国に軍配、複は互角……4
成長した中国の選手……7
座談会＝二度目の訪中をふりかえって……10
羽毛球雑記……12
体当たり実戦教室（第八回）小島一平……16
第13回全日本教職員大会……18
ビギナーへの手紙（第四回）羽戸民敦……20
★全日本高校選手権大会特集
男子は正強、女子は新潟青陵に栄冠……24
勝つも敗れるも全力!!……32
笑顔がこぼれるチャンピオン……33
喜びをかみしめる……34
先生!!……35
日本女子、インドネシアに敗る＝アジア大会速報……36
協会通信……37
マスコミのとらえたバドミントン……38
編集室から・事務局通信……49
＝**おわび**＝
今月は都合により「私の歩んできた道」を休載させていただきます。

スタッフ／表紙撮影・山田真市／同製作・小浜正道／グラフ写真・連続写真・山田真市／協力・日本協会事務局、各加盟団体、愛読者

大会をふりかえって

二度目の訪中

「IF加盟」努力を確約

――育てた〝老朋友〟との友情――

●訪中選手団団長　森友徳兵衛

私が選手達と一緒に海外へ出たのは昭和四四年ジャカルタのト杯が最後だったから、今度の訪中団は六年ぶりのことである。二十名の団員を見渡して大正生れは私一人だったことに先ずびっくりした。今迄は高倉、伊藤(基)さん、或いは今井、相場、内藤さんといった人達が一緒だったのだが、何か私だけ皆との間に仕切られたように感じたのも年のせいだろうか。元来私は皆の中に混りたい性質なので一寸見て団長だと悟られないような立場でいるのが好もしかった。

しかし訪問先が規律と秩序を重んずる国であったし、責任者の責任が一段と重要であり、またそのように遇することに徹している国柄は判っていたので、羅胡(香港側)と深圳(中国側)の境の鉄橋を歩くときから、帰路同じ道を渡るときまで団長、両総務、監督、両コーチ、女子選手、男子選手の隊列を整えた。この点は平素の訓練が全くないに等しい連中としては九十点を上げてよい程のものであった。

上意下達、下意上達は、競技に関する全てを両コーチを選手との連絡者として監督を通じて私に、競技以外は全て伊藤(鉱)総務が私への窓口となった。森総務は団の外務大臣とし、小林、竹市両派遣員とも伊藤氏がまとめて私に連絡するという仕組を作った。この段取りは判り易くて成功したと思う。特に私は二人の有能なパイプ役で万事足りるので大変楽であったと感謝している。帰途、広州には十一日に着き、十二、十三日と試合、十四日発のきびしい日程だったので、監督、コーチ、選手は練習と食事、休養の時間が中心となるので、史蹟見学などの消化には二班に分けて私と総務、視察員の班が当るなど分割行動をとったこともあった。

遠征日程は七月二日東京発香港泊。三日より九日まで北京(友誼賓館)。九日より十一日上海(上海大厦)。十一日より十四日広州(東方賓館)であった。夜の歓迎宴のあった四日昼すぎにロンドン―東京―北京の電報が入って、中国のアジア競技大会参加承認の報をうけ、宴直前の趙正洪氏ほか要人との会談に間に合った。北京を離れる前夜の八日に新疆飯店で答礼宴を開いた。

この日秋本選手X回目の誕生日に当り、趙正洪主賓以下出席者の祝福をうけた。宿舎から秋本嬢に大きなケーキが贈られチ



記念撮影



趙正洪氏との会談

友好深めた

第2回訪中選手団

団長
森友徳兵衛
（日本協会副会長）
総務
伊藤　鉱一
（日本協会常務理事）
森　　武
（日中文化交流協会参与）
視察員
小林　範夫
竹市　行男
監督
小飼　栄一
（日本協会常務理事）
コーチ
堺　　栄一
中山　紀子
選手
池田　信孝
（電電東京）
栂野尾昌一
（ヨネックススポーツ）
今泉　　勉
（高岡市役所）
谷口　　寛
（トヨタ自工）
田所　光男
（電電東京）
銭谷　欽治
（中央大学）
湯木　博恵
（河崎ラケット）
竹中　悦子
（ヨネックススポーツ）
池田　美加
（河崎ラケット）
塩崎　睦子
（志貴野高教諭）
秋本八代美
（日本体育大学）
徳田　敦子
（四条畷学園短大）

ームで改めてお祝いした。当初武漢で試合が組まれていたが、種々の事情で割愛され残念であった。

今回の遠征の目的についてはいわゆる一に友好、二に競技という二つの目的があったが、私はチームに対して〝友好第一、競技第一〟という妙なすり替えを指示した。つまり両方の目的が同一の比重であると言いたかったのである。この内競技の面については、特に訪中並びに事後引続く遠征、対外試合は全て明年のユ杯防衛目的達成に資するためのものであることを強調し、また勝敗よりもコートで自分自身の全てを出しつくせたか否かを問うと指示して出発した。

この点幾多の異論はあると思う。私個人の立場から見ると、この遠征をきっかけに期待を新たに確定してくれた選手や、シングルスに再度意欲を持った選手などプラス面が多く、反面期待外れのマイナス面もあったし、押しなべて今度の遠征を通して明年への方向づけという点で得るものが極めて多かったといえる。しかし用具について工場見学ができなかったことは非常に痛かった。特にガットの製造工場を見る機会を失して北京を離れたことが残念で、やむなく次回訪中の役員に託すより外はなかった。



十三陵での

肝心の競技成績は男子が一勝二敗一分け、女子が一勝一敗二分けで終ったことも併せて、採点を八〇～八五点とした。

もう一つの大きな遠征目的の友好関係の増進については両総務、特に森氏の努力で期待以上の成果を納め得たものと確信している。役員の選任についても昨年訪日チームを札幌で熱烈歓迎した小飼氏、同じく名古屋での伊藤氏であったことは、中国側では既に熟知していたことは幸いであったと思う。伊藤氏はまた香港八ヵ国競技会で中国のIF加盟についてアジア諸国の協力を呼びかけたこと、その成果がちゃんと報告されていた。

孫藍女史（訪日団長）にも会場でお会いした。三回会えばラオポンユー（老朋友）になるといわれるこの国では、理解し合い、助け合う友人が一人でも多く増えることが喜ばれる。広州では昭和四〇年五月のジャカルタに出場した当時の女子軍ナンバー2のリャン・シャン・ムーが、日本の中山夫人と同様女子チームのコーチになっていて、二人はその時以来の空白を一度に埋めながら楽しげに話合っていた。このような懐しい出合いが老朋友への導入となるのであろう。各地において中国側からIF加盟に対しての日本の努力について感謝され、団からは各地で中国のIF加盟実現に引続き今後も努力を傾注することを確約した。このやりとりがバドミントンに於ける日中の結びつきをより強いものにしたことと信じている。

二十名の日本人が新生中国を理解して帰国し、この二十名を通じて多くの中国人が現在の日本の一面を知った。私はこの効果を百十五～百二十点と評価して、競技面の点数と合計して二百点の満点をつけたいと考えている。

▽第一戦（7月5日）
中　国　4－2　日　本
▽第二戦（7月7日）
中　国（青年隊）　4－4　日　本
▽第三戦（7月12日）
中　国（広州隊）　4－4　日　本
▽第四戦（7月13日）
中　国（福建隊）　5－3　日　本
（通算成績は日本の2分け2敗）

単は中国に軍配、複は互角——

銭谷、健闘よく方凱祥を降す

◇第一戦（七月五日　首都体育館・観衆一万八千人）

▽男子

中国一（単1―1 複0―1）2日本

湯仙虎 2（15―6 15―6）0 栂野尾

方凱祥 1（13―15 12―15 15―10）2 銭谷

陳天祥 庾耀東 1（17―18 12―15 15―7）2 池田 栂野尾

▽女子

中国3（単1―0 複2―0）0日本

梁秋霞 2（11―3 11―4 6―11）1 湯木

丘玉芳 林有雅 2（15―2 15―9）0 塩崎 秋本

陳玉娘 梁秋霞 2（15―3 15―10）0 湯木 池田

〔男子評〕　銭谷―方凱祥は多分に〝友好試合〟だったにしろ、若い銭谷に勝ち味をおぼえさせてもらった、と見たい。とはいえ、銭谷も好プレーだった。とくにフォアのストロークが安定しており、ネットプレーもよく拾い、フライが低かった。このほかの勝因はフルゲームに持ち込めたからで、ファイナルゲームは6―9からタイとし9―12とされたあと一気に14―12と逆転した。ベテラン方凱祥とも思えないほどのイージーミスが目立ち、この点が〝友好試合〟と思われた。

池田組の白星も大きい。先行されながら若手の庾をねらってミスを誘った。13―11から追い上げられてセッティングに入ったファイナルゲームは、常に先手を握って離さなかったのがよかった。

〔女子評〕　第一試合の湯木―梁秋霞を注目したが、「タマコさん（陳玉娘の愛称）とやりたい」とかねがねいっていた湯木の思惑外れから意外な結果が飛び出した。今年の全英での2度目のシングルスに優勝した湯木は、第1ゲームこそすばらしい試合運びを見せたが第2ゲームで奮起した梁に押し切られてしまった。まだ気分屋的なところが抜けていない。

丘玉芳組に塩崎組は荷が重すぎ陳組―湯木組に期待したが、このペアの弱点を突かれた。池田の攻守にサエがもうひとつ見れなかったのがそれ。第1ゲーム、一度は6―5とリードしたがその後7ポイント連取されては苦しい。このあたりが問題点だ。第2ゲームもミスの連続で、立ち直るきっかけがつかめなかったのは残念。

（評・竹市）

田所・谷口組みごとな攻撃

◇第二戦（七月七日　工人体育館・観衆八千人）

▽男子

中国2（単2―0 複0―2）2日本

陳新輝 2（15―9 15―8）0 銭谷

林詩銓 2（15―6 15―13）0 今泉

蔡子敏 闔玉江 0（4―15 7―15）2 田所 谷田

陳新輝 周克検 0（14―17 6―15）2 池田 栂野尾

▽女子

中国2（単2―0 複0―2）2日本

李芳 2（11―3 11―10 12―10）1 竹中

劉霞 2（11―3 11―5）0 徳田

何翠玲 劉浩 0（6―15 7―15）2 塩崎 秋本

向明珍 涂棚芳 0（6―15 6―15）2 湯木 池田

〔男子評〕　青年隊（ジュニア・ナショナル・チーム）だけに両国選手とも力いっぱいのプレーをした。女子もそうだが、ともに単を落し複に勝つというのは、現在の日中の実力の特長をよくあらわしていた。第一試合の銭谷は馬力のある陳新輝の強打にまともに対抗してしまった。まだ相手を見てかわすところまでのズルさがないが、若手の成長株としては、敗れても好内容の試合だった。逆にベテランの今泉が十八歳の林詩銓に第1ゲームで8―4とリードしながら5ポイントも許したのはどうしたことか。第2ゲームも4―10ではばん回不可能だ。

この日一番の出来は田所組。田所が前でつなぎ、長身の谷口がよく決めた。スマッシュに角度があり蔡組を突き放した。ペアワークもよく、トマス杯にも起用したいペアだ。

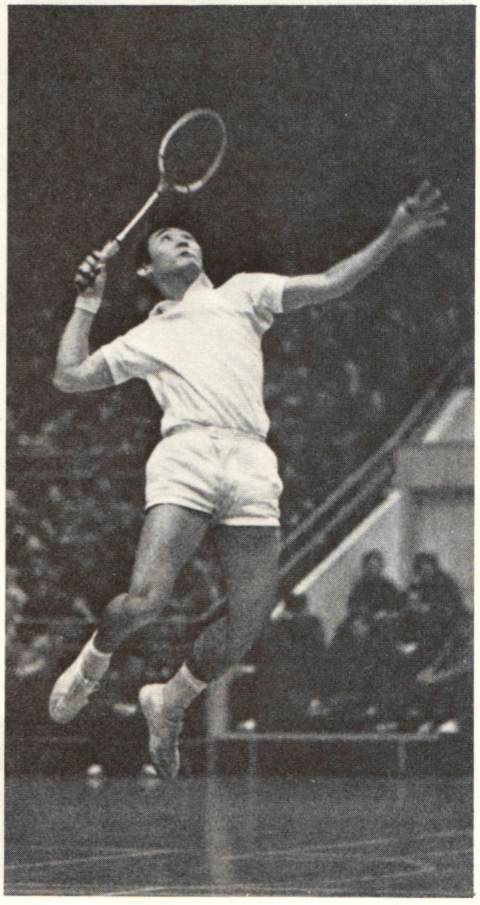
〔女子評〕　竹中はどうも競り合いに弱い。こんな選手ではないが、どこか故障でもあるのだろうか。第1ゲームは大揺れ。李が6―1とすると今度は竹中にペースが移り6ポイントの連取。10オールのセッティングでミスを2つ犯した。第2ゲームも9オールから1本取られたあと粘ってものにしたが、ふんばりもここまで。ファイナルは3―5から一方的に敗れた。スタミナがなく疲れが出だしたのか。

徳田には期待を裏切られた。フットワークが生かせず常にタマを横の低いところで打つ。劉霞に左右へ振られるとお手上げ身上の強打も全く見られずじまいとは情ない。塩崎組は小柄の秋本がハッスル、塩崎もよく動いて好ショットを連発した。相手が十九歳の何翠玲、十八歳の劉浩と若いだけにイージーミスが多かった。

（評・竹市）

四戦の結果を分析すれば

侯加昌のジャンプスマッシュ
（「中国のバドミントン」から）



竹中、朱に苦杯

◇第三戦（七月十二日　広州体育館・観衆五千人）

▽男子

中国3（単2―0、複1―1）1日本

方凱祥　2　（15―8）
庾耀東　2　（15―7、15―4）
0　栂野尾
1　銭谷

伍伯強　1　（3―15、15―12、2―15）
姚喜明　2　（15―3、15―11）
2　田所
0　池田
谷口
栂野尾

▽女子

中国1（単1―1、複0―2）3日本

潘祝英　0　（5―11、8―11）
朱超琴　2　（11―7、11―7、11―2）
2　湯木
1　竹中

余恵蘭　0　（7―15、9―15）
曹麗明　0
2　塩崎
2　秋本

潘祝英　0　（8―15、4―15）
朱超琴　2
2　湯木
池田

〔男子評〕　大ベテラン、方凱祥の疲れを知らないスピーディな攻撃。全く頭の下がる大選手だ。栂野尾も決して悪くはなかったが、方凱祥の気迫と場内に流れ込む風を気にしすぎたようだ。銭谷は第1ゲームで11―12から一気に逆転、逃げ切ったものの、コートが変わるとミスが目立った。風とネットプレー、ハイクリア、スマッシュで手首の硬さが目立ち球足が伸びすぎた。ファイナルゲーム、3―8でコートチェンジは苦しすぎた。

田所組は第二戦同様に好調。第1ゲームは田所の前さばきのよさ、谷口の強打といいところを十二分に出し切っていた。

それにしても方凱祥の若手の鍛え方はすごい。パートナー、庾耀東が取る球を見のがし、方凱祥が飛び込んでポイントしたとき、血相を変えて庾耀東を叱りつけていた。温厚な彼の他の一面。あれくらいにしなければいい若手が育たない、と思い知らされた。

〔女子評〕　湯木が貫録勝ちしたあと竹中がまた苦戦した。第1ゲームは0―8。とても考えられないスコアだ。風はかなり影響したが、それは相手の朱にとっても同じ条件。最近、複に主力が移り、単の試合運びを忘れてしまったのか。単複を同じぐらいにこなせる技量、経験はあるはずだが…。ユーバー杯で湯木に続く単要員だけに奮起を望みたい。塩崎組は2ゲームとも逆転勝ちと粘りがある。さして特色があるわけではないが、コートカバリングの広さ、球に食い下がる執着心ともに日本のバドミントンが持つ特色を見せていた。とくに第2ゲームの二度にわたる6ポイント連取は相手に立ち直らすスキを与えない速攻で見事だった。湯木組も湯木が決める形でなく池田に打たせ、また彼女に凡ミスがなかったので楽勝した。

（評・竹市）

徳田健闘およばず

◇最終戦（七月十三日　広州体育館・観衆五千人）

▽男子

中国3（単1―1、複2―0）1日本

陳新輝　2　（15―2、15―4）
蔡子敏　0
0　今泉
2　銭谷

呉俊盛　2　（15―7、15―11）
陳天祥　2
0　池田
栂野尾

陳新輝　2　（3―15、15―2、15―10）
葭従良　2
1　田所
谷口

▽女子

中国2（単1―1、複1―1）2日本

竜宝宝　1　（7―11、12―11、11―2）
2　竹中

丘玉玲　2　（11―1、11―2）
丘玉芳
林有雅　1
0　徳田

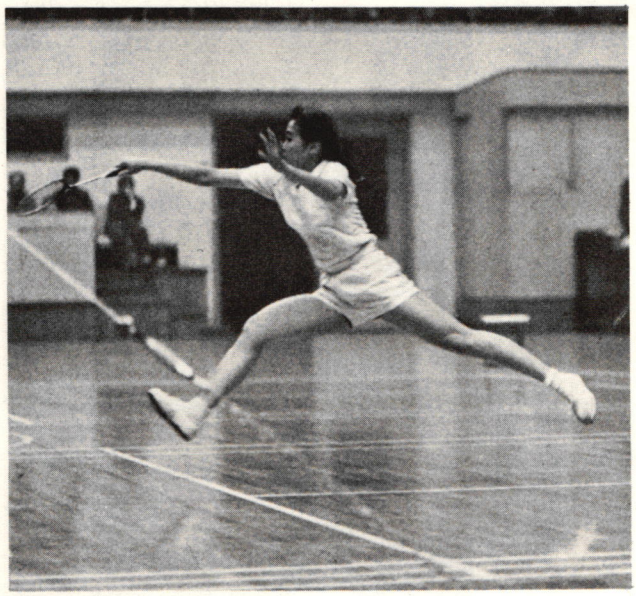
丘玉玲　2　（15―2、15―5）
翁健徳　2
0　塩崎
本

丘玉芳
林有雅　1　（8―15、9―15、15―11）
2　湯木
池田

〔男子評〕　第2戦に次いで出場した今泉。試合前の意気込みが風のためか球足が伸びて首をひねる場面が多く完敗してしまった。手首を内側に巻き込むようにしたハイクリア、スマッシュが打てれば角度がついてエンドを割ることが少なかったと思う。

一戦ごとに力をつけた銭谷がまた快勝した。第1ゲームは15ポイントのうち自から攻撃して握ったのが9ポイント。いかに

陳玉娘のネット(「中国のバドミントン」から)



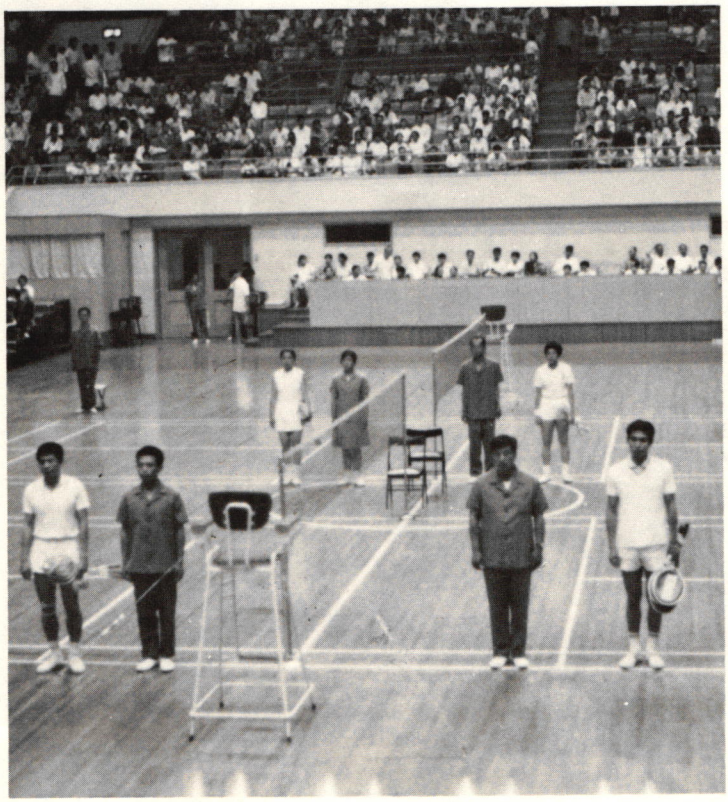
攻撃が最大の防御一かを見せた。ジャンピング・スマッシュも手首の返しがよく鋭くコートを突いた。またネットプレーも落ち着いており、相手のブラインド・サイドに送っていた。明暗の分岐点は第2ゲーム、8オールから銭谷のハイクリアを蔡子敏が見逃した。これがオン・ラインに落ちてから銭谷が一気に強気に出た。最後は相手のヘアピン・ショットをプッシュして白星を不動にした。池田組は第1ゲームのミスが痛かった。

田所組はファイナル・ゲームで攻め急ぎすぎた。10-7とリードしているだけにあわてて強攻する手はなかったのに…。この1敗で引き分けの可能性が消えたのが惜まれる。

〔女子評〕　湯木組が中国NO1の丘組に何度かのこう着状態を乗り切って快勝すれば、白星のなかった竹中がやっと初勝利の収穫は大きかった。湯木組は一般的に池田がつなぎ湯木が決めると思われ勝ちだが、その実逆のパターンの方が快調だ。

この試合に関するかぎり理想型の試合だった。池田のダッシュがよく常に一歩踏み込んだ体勢から打っていた。そうなると自然とネットプレーもよく、スマッシュにも鋭い高打点速攻が出る。8-7でコートチェンジしたファイナル・ゲームは、丘玉芳がサーブを強襲しようとあせったのが効いた。湯木、池田ともにこの日のパターンを忘れずに今後に生かしてもらいたい。竹中はまたもつれたが、6-0でコートチェンジ。ストレートで片づけるペース配分を研究すべきではなかろうか。それだけの技量はあると思うが…。塩崎組は塩崎の発熱で足が出ず敗れてしまった。失望したのは徳田。相手のミスでしか得点出来ないのでは恥しい。コートに入って上気し、息使いが荒いようでは自分のプレーは出来ない。国内的には現在の力で押す形で通用するが、国際試合ではそう簡単なわけにはいかない。第二戦の時もそうだが、何故完敗してしまったのかがわかっていないようだ。若いだけに心技ともっとどん欲になってもらいたい。今回の経験を生かし今後の相当苦しい基本練習を繰り返さないとこのままで終ってしまいそうだ。

(評・竹市)



第一戦の第一ゲーム開始直前

成長した中国の若手

●訪中選手団監督　小飼栄一

大会をふりかえって

七月二日、羽田空港に集合した選手団は、皆旅なれた様子で、私も気楽な旅立ちを感じました。それが三日早朝に香港の九竜駅から中華人民共和国の入境地である深圳駅に近づくにつれて我々役員の間に緊張感がでてきた様に思われました。これは日中文化交流協会の森さん以外、初訪中であり責任上当然ではありますが、これにひきかえ選手たちは初訪中の銭谷、塩崎、徳田を含め、くったくがなく、好対照に感じられました。

深圳での入境は思っていたほどきびしいものではありませんでしたが、小さな橋を渡りながら五星紅旗と「毛主席万才」の文字が眼に入った時、ああ中国に来たという実感がわきました。

広州行きの列車は至極快適でエアーコン、リクライニングシートで乗務員が茶のサービスをしてくれ、汽車の旅を楽しみながら広州に着きました。

「暑い」これが広州での第一印象、そして心のこもった歓迎、中国的表現では「熱烈歓迎」となるのでしょうが、これは中国滞在中どこでも受けた暖かい雰囲気で肌で感じることができました。このスキン・シップはどれだけ言葉の障害を取り除き友好を深めたかは計りしることができません。

広州で世界の珍果「レイシ」を御馳走になり再会を約して主都「北京」に向いました。

北京空港には昨年来日した、多くの選手たちの出迎えを受け「老朋友」としてなつかしがられ、非常にうれしい一瞬でした。

宿舎の「北京友誼賓館」での晩餐会もなごやかに終り、各部室に落着いたのは夜半を過ぎてからでした。長い印象深い、そして意義深い一日でありました。

四日午前中、選手は主都体育館で練習、役員は日程会談を行い、昼食後、第一戦のオーダー交換を中国ナショナルチーム・コーチの陳福寿先生と私と堺、中山両コーチとで会談し、男子については異論なく決まりましたが、女子の単については湯木に対して陳玉娘を指名したところ彼女は現在体育総会の書記の要職にあり多忙のため練習不足と身体の不調を理由にことわられ、梁秋霞と対戦することになったわけです。

オーダー交換後、天安門で代表されている「故宮」を見学し午後七時より「北京ダック」の料理で歓迎レセプションが催され、ここで陳玉娘がメイン・テーブルに着席していることで彼女が選手よりも役員として待遇されていることを知りました。

翌日の「中・日羽毛球友誼比賽（試合）」の歓迎式（開会式）でも、彼女は主賓台に着席しており、しかも北京バドミントン協会々長よりも上席にいることからも、かなりの要職についていることが確認されました。

このことは我々にとって非常に大きなニュースであり、中国体育総会がバドミントンに特段の力を入れていることが伺い知ることが出来、しかも女子に焦点を合せている無気味さをひしひしと感じさせられました。

主都体育館での第一戦は中国ナショナル・チームと行い、工人体育館での第二戦は中国ジュニアチーム、広州市体育館での第三戦は広東省チーム、第四戦は福建省チームとそれぞれ対戦し友好の実をあげることが出来



首都体育館のようす



深圳にて

ました。

成績と詳細の記録、技術等については、堺、中山の両コーチがくわしく分析し、今後の強化に役立てることになると思いますが、総評しますと、日本選手の主力は実業団大会の直後の参加のため、ベストコンディションでなかったと思われます。一部に迫力、気力に欠けたプレーが散見されたのが残念でした。

しかし大部分の選手はそれぞれ持ち味を活かしたプレーにより大きな成果を収めたことが出来たのではないかと信じます。

中国の選手たちも決して良い状態でなかったろうと思いますが（西ドイツチームが滞在中で各地で転戦していた）方凱祥に衰えを感じましたし、複では若手と二線級との間に差がありすぎる様に思われました。また、このことを認める様な堺、中山両コーチの発言もありました。

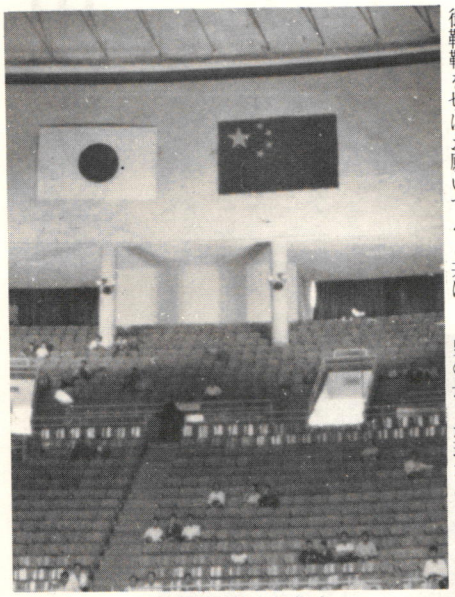
女子は梁秋霞が一段とたくましくなっていたのと、若い李芳が順調に成長をしていること、朱超琴（広東省チーム）、丘玉玲（福建省チーム・丘玉珠の妹）等未知のすぐれた選手たちがしのぎをけずっていることを推測することが出来ました。

複は陳玉娘・梁秋霞組、丘玉芳・林有雅組は来日時より強くなっているとは思われず、又若手もこれといったペアーが育っていない様でした。

しかしこのことは中国のコーチたちも充分に認識しており、謙虚な姿勢と率直な学習態度は近い将来、立派なペアーを数多く輩出してくるのではないかと脅威を感じます。

日本選手が反省をしなければならない点は男女ともフットワークのスピードに欠けること、持久性が劣ること、そして調整のまずさがあげられます。このことは選手各自の自覚による以外に強化の道はなく、一層の精進と努力を続けてほしいと思います。

「遠い親戚より近くの他人」という言葉がありますが隣りに立派な親戚が出来たのですから、これからは相互に大いに学習しあい、世界のバドミントン界をリードするためにも私はユーバー杯保持のため全力をつくす覚悟を新たにし、諸先輩の御指導御鞭韃を切にお願いすると共に、


工人体育館のようす

コーチ、マネージャーの益々の協力、選手各自の強い自覚を要請したいと思います。

今回の親善訪中は日本バドミントン協会にとっても、もちろん参加した私たち役員選手にも大きな成果があったものと私は信じています。友好第一、勝負第二は充分に達せられたと思いますが、これからも多くの人たちが訪中をし、「百聞は一見にしかず」の諺どおり解放後の発展中国の息吹きを肌で感じてほしいと思います。

試合と試合の間に計画して頂いた「故宮」「北京市業余体育学校」「万里長城」「十三陵」「身障者工場」「勤労者住宅」「人民公社」「農民住宅」等の見学や訪問を通じてスケールの大きさや、歴史の長さが現在の中国の発展にそれぞれの意味があり、活かされているのを見ることが出来たことは非常に勉強になり、感謝にたえません。

私たちの中国滞在中、多くの人たちからの多くの親切を忘れることは出来ません。心からお礼を申し上げます。この機会に生まれた友情をいつまでも育てあたためて行きたいと思います。

これは「人民中国」六月号にあった詩です。

遠看一片霞、近看是桜花。
不是花、不是霞。
天壇裏、白雲下、一幅中日友

終りに森友団長、森、伊藤の両総務、竹市、小林の両視察員の御指導に御礼申上げます。

又、堺、中山両コーチを始めとし選手諸君の協力にも感謝申しあげます。



手応え確か。

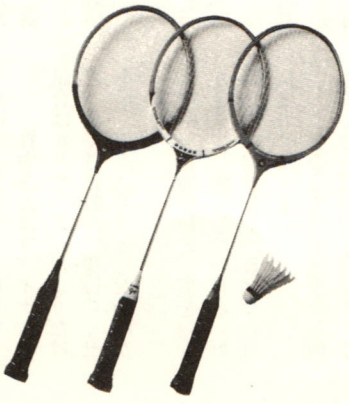
ゴーセンバドミントンラケット



白いシャトルコック目がけて力いっぱいふりおろす——インパクトの瞬間に感じる勝利の手応え！

ゴーセンのバドミントンラケットはまさにあなたの腕の延長。はじきの良さと軽やかさ——これがゴーセンバドミントンラケットの特長です。

その他、シャトルコック・ウエアも教多く用意しています。お求めは全国有名デパート・スポーツ店でどうぞ。



GOSEN RACKET
FOR BADMINTON

株式会社ゴーセン

本　社 ■ 大阪市東区豊後町4　☎(06)942-5816(代)
東京支店 ■ 東京都台東区鳥越1-26-1 ☎(03)862-6576(代)

座談会

二度目の訪中をふりかえって



万里の長城にて

選手のみなさん、ほんとうにごくろうさまでした。いま、広州の駅でわれわれを見送ってくれた中国の関係者の皆さんの表情をみても、「日中友好」というわれわれの目的は立派に果たせたと思われます。そこで、ここ広州から国境の深坊にいたる列車（軟座車＝冷房のきいた一等車）の中で、簡単な座談会を開き、たった今見てきた中国のさまざまな印象を男女十二人の選手に話してもらうことにしました。遠慮のない意見をどんどん出して下さい。（司会は小林、竹市両視察員）

――中国は初めての人が三人いたね。銭谷君、塩崎さん、徳田さんか。まずこの三人に中国の印象をひと口で語ってもらいましょう。

徳田　ひと口でいうのはむずかしいけど中国は何か〝堅い〟って感じ。人の態度も表情も。

塩崎　国が大きいせいか何でもスケールが大きくて、考え方もコセコセしてないようね。指導的な立場にある人が熱心なのが印象に残ったわ。

銭谷　革命の国だから、ボクは市民がもう少し活気にあふれていると思っていたが、意外にリラックスしていたな。二十年後の中国がどうなるか、とても興味深い。

――それじゃあ二度目の人はどうだろう。前回（昨年十一月）にくらべて何か変わった点はあるかしら。

田所　前回からわずか八ヵ月しかたってないから、変化はないんじゃないか。

栂野尾、谷口　本質的にはかわりないようだね。

池田（美）　季節が違うから着ているものなどで印象は違うわね。

秋本　車が少しふえたようだし、着るものがカラフルになってきた。気候のせいかしら。夕方、みんな家の外に出て路上で食事している風景なんか前には見られなかったわね。

竹中　子供服なんかにかわいいデザインのものがふえてきたんじゃない。

湯木　外人が多いのも目につくわね。ヨーロッパなみじゃないかしら。

今泉　町に〝色〟が出てきたことはいえるんじゃないか。

池田（信）　恋愛なんかご法度（はっと）だと思っていたんだが、そうじゃないんだね。上海の大きな橋（注＝昔のガーデンブリッジ）の上で夜おそく若い男女が身を寄せ合って話しているシーンを見て何かホッとしたよ。（声をひそめて）わが選手団の方がよっぽど封建的…（笑い）

――やっぱり中国も少しずつ変わっているようだね。池田君の冗談が出たところで話題をかえよう。中国選手のプレーの面で変化は見られましたか。キャプテンの池田君と湯木さん、どうだろう。

湯木　女子に限っていえば、全般に中国選手の実力はあまり伸びていないんじゃないかしら。日本選手が向うのプレーに馴れてきたのかなあ。中国のプレーのくせがわかってきたみたい。わたしはそれほど悲観していないんだけど……

池田（信）　トップの数人とその下の選手では実力の段層があるように思う。だから中国はいま若手の養成に力をいれているんだ。

栂野尾　中国の若手は、日本の実力より〝ちょっと上〟という程度だよ。侯、湯、方なんかとは年期が違うな。

秋本　わたしは前回よりずっとやりやすかった。やっぱり湯木さんがいうようにくせがわかりかけてきたのかもしれない。

――竹中さんはファイナルの試合ばかりやっていたようだけど、たくさん打って中国のくせを早くのみ込もうとしたわけか（笑い）

竹中　意地悪ねえ、実をいうと足を少し悪くしていたの。好調なら中国の若手に負けない自信はありますよ。

――ところで中国選手から何を学んだか、それを聞きましょう。

徳田　体がやわらかいのでどんな体勢からでも打ってくる。わたしは体が硬いから、考えなくっちゃ。

池田（美）　フォアをクロスに返してくるのが目についた。いちばん苦しいことを平気でやっている。

谷口　向うの一流は、体の動きの緩急の中から速いタマ、おそいタマを自由にあやつって相

手のリズムをくずしている。実にうまいなあ。

田所　ショートサービスのうまさは抜群だな。ヨーロッパだったらフォルトをとられるんじゃないかと思われるようなスレスレのことをやっている。

――さて、話が堅くなったので話題をプレーから観光に移そう。見物したところではどこが一番よかった。

一同（口をそろえて）万里の長城。

――前回いった人もですか。

一同　そのとおり、前回はあまり天気がよくなかったけど、こんどはソ連領さえ見えそうだった。

――少しオーバーじゃないか（笑い）ほかには…

谷口　労働者のアパート訪問。一か月一人10円（1円は日本の140円くらい）でくらしており、定年退職者にも給料の70％が支給されている。インフレがないから老人も安心していられるのはいいねえ。

栂野尾　身障者の工場で悲しい身の上話もきいたね。あそこまでお客さんにいう必要あるのかな。

池田(美)　見学する所が出来すぎているというか、演出されすぎているようにも思うんですけど……

――まあ、国にはそれぞれの事情があるわけだから、外国人はそれを理解しなくてはいけないんだろうね。



工人体育館正面

――さて、みんなかわったおみやげをずいぶん買っていたようだね。

銭谷　塩崎さんがウルシぬりのハシを百人分買ったのが最高ケッ作だね。そんなにどうするの？

塩崎　学校に帰って先生全員にあげるの。きっと喜ばれるだろうな。安いし、いい買物よ。

今泉　ぼくは七十人分のおみやげを買った。

――七十人？つき合いが広いんだね。

今泉　安いのばっかりですよ。田舎はせんべつをくれる人が多いですからたいへんなんです。バーのママからもらったりしちゃって……

――マオタイ酒を一番先に三本も買ったのが秋本さん、てのも話題になるんじゃないか（笑い）

湯木　本当は外人用の友誼商店じゃなくて、町に出て好きなものを買いたかった。中国には持っていると一生の記念になるようなものがたくさんあるんじゃないかしら。

（終点を知らせる車内放送）

列車はそろそろ深圳に着くようですから、このへんで終りましょう。ありがとうございました。

水鳥　検定合格球

ファストゴールド

ファストシルバー



ファスト印シャトル
コック　製造発売元

有限会社　ジャワ商会

山形市六日町7の28
電話 0236(33)0333(代表)

羽毛球（ユイマオチュウ）雑記



北京での歓迎レセプションで歌う日本チーム

レイシに始まりレイシに終る？

○…何のことかわかりますか？。レイシとは荔枝（ライチー）、つまり、唐の玄宗皇帝が、愛妾楊貴妃に食べさせるため、四日四晩、早馬を走らせたというあの神秘のくだもの。高級な中華料理をたべるとデザートにカンヅメのレイシが出てくるのでご存知の人も多いはず。中国最初の訪問地広州で先ずわれわれを歓迎してくれたのが「ナマのレイシ」だったから一同大感激。「とれる時期が短くて、みなさんはほんとうにラッキーでした」との通訳の説明もうわの空で、食べるは食べるは、たちまちテーブルの上にはレイシの皮の山が出来たほど。その高貴な香りに、女子選手などは楊貴妃にでもなったような顔つき。帰りの広州でも食卓にレイシが出て、レイシに始まりレイシに終った中国の旅でした。

陳さんは張さんのお嫁に

○…中国女子第一人者、いや、もしかしたら世界NO1かもしれない陳玉娘さんが、男子コーチの張光明さんと今秋結婚することが明らかとなった。七月八日北京空港に見送りにきた陳・張のカップルは写真をとられたり、ひやかされたりでテレっぱなし。コートではオニのようにおっかない存在の陳さんも、やっぱり普通の娘さんだったが、結婚式が行われるころには、中国バドミントン協会より一つ上のスポーツ団体、中華全国体育総会（日本の体協にあたる）の重要なポストにつくことが約束されているとあって、湯木、竹中ら日本の女子選手は「そのうちにタマコさん（陳の愛称）などと気軽に呼べなくなっちゃうかも…」とちょっと心配そうだった。



右から堺コーチ，小飼監督，秋本選手，通訳の張桂珍さん

ハッチが人気NO1

○…日本選手団で中国に一番人気のあった人は誰れでしょう。それはハッチこと秋本八代美さん。中国人には見られないむっちりしたからだつきで登場し、ミスショットするとショートカットした髪をガリガリっとかいて首をかしげるので、中国の観衆はハッチが出ると大喜び。北京でレセプションが行われた七月八日はちょうど彼女の誕生日とあって同地のスポーツ界のおえら方からのマオタイ酒の祝福を受け、お礼に「シアワセなら手をたたこう」を歌ってサービスするなど社交家ぶりを発揮。夜には宿舎で誕生パーティーが開かれるなど、内外ともに人気NO1でした。

紅衛兵？いや徳衛兵？

○…われらが団長、森友徳兵衛副会長。日本人だったらその



主賓台に着席しているＶＩＰ待遇の陳玉娘選手

名を「トクベエ」とすんなり読めるのだが、中国人はこの独得の読み方になじみがうすく、学生さんの通訳はしばしば「トクヘイエイ」と読み違い、ひどいときには「トクエイヘイ」などと読んだ場合もあった。

「紅衛兵の国だから仕方がない さ」などとしたり顔で冗談をいう男子選手もいたが、間違えられてもニコニコしているあたり「さすが団長は人格者」と一同感心。

練習と思ったら試合でした

○…今回の遠征では上海での試合はスケジュールに組まれてなかったが、選手は一日たりとも練習を休むわけにはいかない？とあって、十日午後、上海南区体育館を貸りることになった。「どうぞお使い下さい」ということで、気軽に出かけていったら、入口には「熱烈歓迎、日本羽毛球代表団」の看板が立ち、観客席は約五百人のファンでいっぱい。驚いていたら「試合形式の練習会をやろう」と申し込まれ、日本チームは二度ビックリ。堺、中山両コーチは、大ワラワでオーダーを組み、1ゲーム制の試合が男女単複6試合も行われた。中には男子の載金良、顔世強、女子の陳蘭芳など国際級の選手もいて、なかなかの好試合。最初は「中国側にしてやられた」といっていた日本チームも、最後は「いい勉強になった」と大喜びだった。

曲芸にもバドが……

○…有名な上海の曲技団（向うでは雑技という）は来日している最中で、その〝二軍〟を見せてもらった。二軍だからたいしたことはないだろうと思ったら大間違い。日本に来た〝一軍〟とほとんど同じ曲芸で旅の疲れをいやしてくれたが、中でも感激したのは、ジャグラー（手芸）で、ビールビンやナイフのかわりにバドミントンのラケットが登場したこと。バドミントンがこんなところまで浸透していることに選手一同痛く感激。



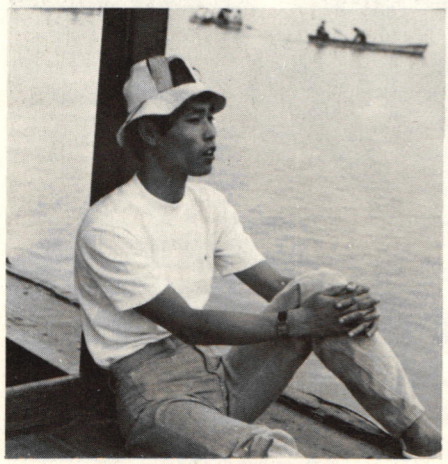
万里の長城で伊藤総務

晴天、万里長城

○…各地を訪問、見学した内で、どこが一番よかったか選手にたずねたら、全員一致で「万里長城」。昨年についで二度目の人が多いのに、それでも長城をあげたのは、これ以上望めないほどの晴天に恵まれ、山頂に続く石ダタミを登ると、モンゴルのほうまで見えようかという景観。すばらしい景色につられて、団長以下全員、長城ならぬ〝頂上〟を極め（そこから先は立入禁止）たが、降りてきたときは相当にバテバテでした。

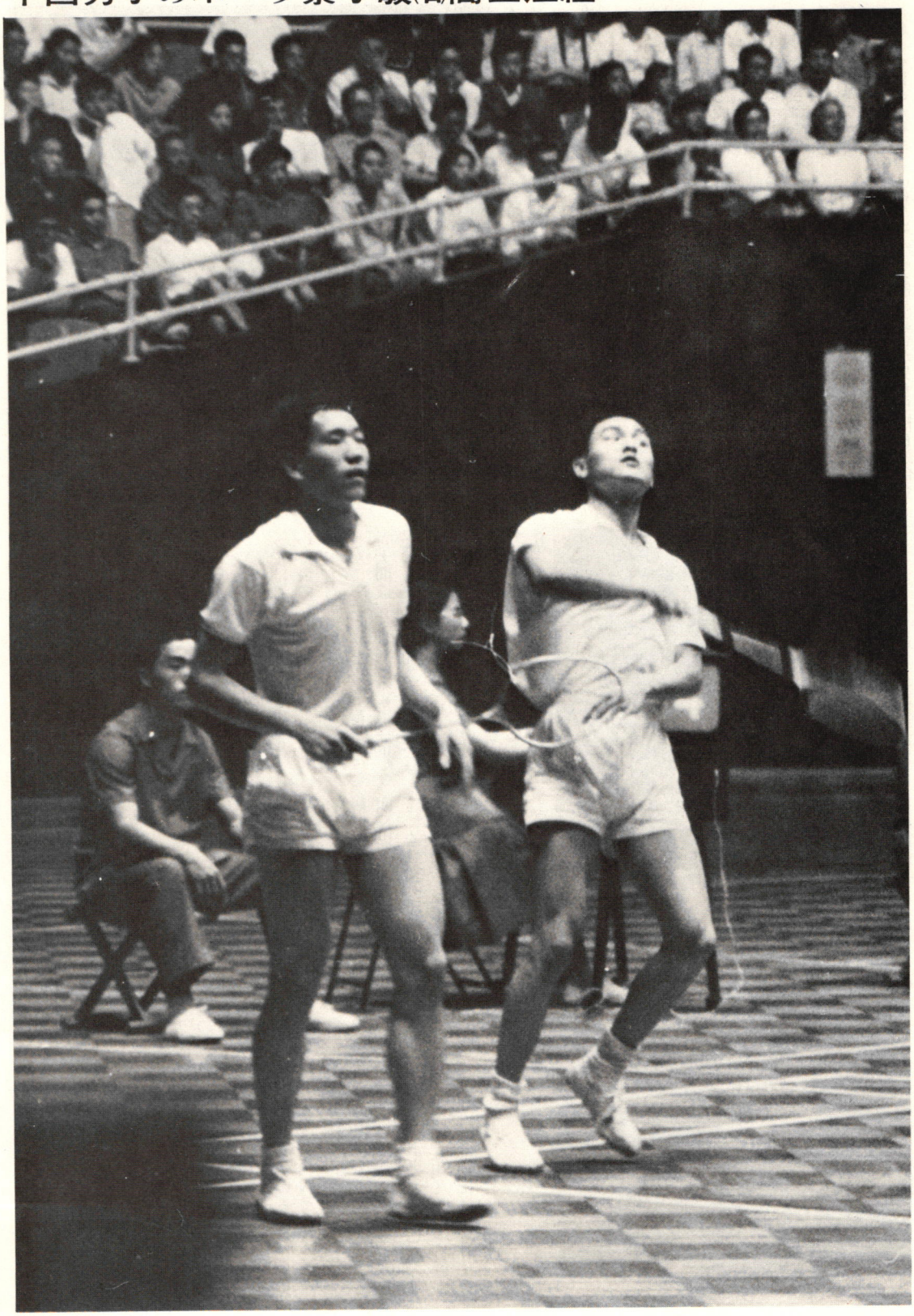
上海でホッと(?)した胃袋

○…「北京から上海についたらホッとしたなあ」という人が何人もいた。北京であんなに歓迎されたのに、けしからんことをいう奴だ、とよくよく聞いたら、胃袋の話だった。中華料理はいろいろ食べ馴れているはずの日本人だが、北方の北京料理は味がこいせいか、口に合わない人が多かった（女子の竹中選手だけは例外）が上海料理は少しさっぱりしているため、胃袋がホッとしたというわけ。これが広東料理ともなると、もっと日本人になじみが深いので、日本国内で中華料理をたべているような安心感があるという。北京、上海、広州でそれぞれ味が違うなんて、中国はやはり大きかった。

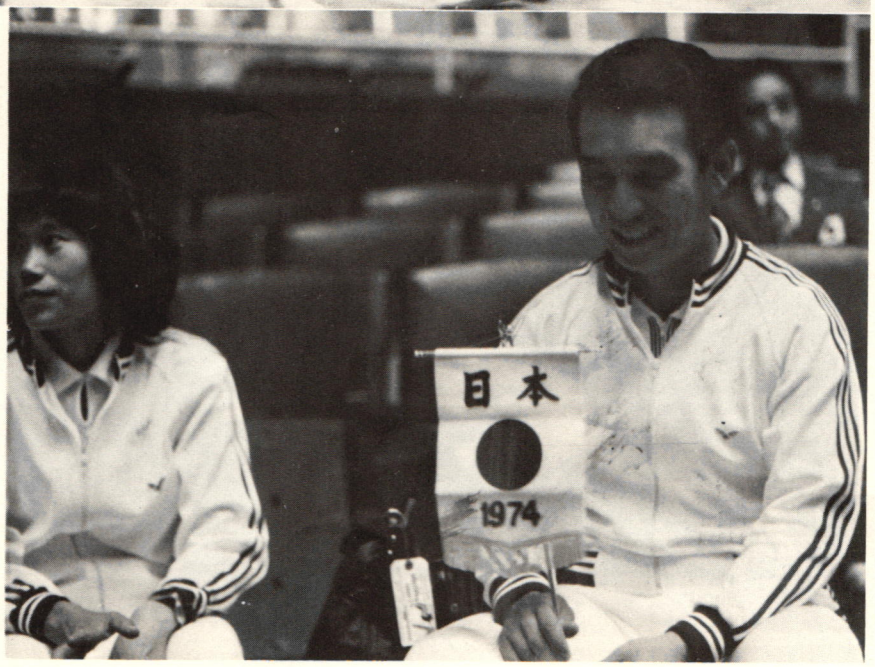


船遊びの梅野尾選手

中国男子のホープ蔡子敏(右)閻玉江組（工人体育館で小林視察員撮影）







次代をになう日中の若手女子選手（上）
右から何翠珍、徳田敦子、何明珍、劉浩、淳棚芳、塩崎睦子、劉霞、秋本八代美
（工人体育館で小林視察員撮影）
第三戦を前に中山、堺両コーチ（右）
（工人体育館で伊藤総務撮影）

実戦教室 〈第8回〉

ードを学ぼう

小島一平

世紀の対決はおあずけ

中国のアジア大会出場が承認され、全世界のバドミントン関係者の大きな関心のまとは、世界チャンピオンであるインドネシアのルディ・ハルトノと、中国のエース、侯加昌、湯仙虎との対戦が実現するのではないかということでした。

私も、この世紀の一戦の実現を強く期待していたのですが、残念ながらハルトノは不参加でした。

これは、ハルトノが中国選手と対戦して敗れるようなことがあれば、世界チャンピオンのイメージにキズがつくし、事実、この三選手と実際と対戦した私には、ハルトノが中国選手と対戦して勝てる可能性は少ないと思うし、この点はインドネシア関係者も十分わかっていると思います。

読者の皆さんもよくご存知のとおり、インドネシアではバドミントンは国技であり、そのチャンピオン・ハルトノは至宝、大切な財産なのです。

その財産を失いたくないために、不参加という処置をとるのもやむをえないかも知れません。

ハルトノと中国選手を比較してみると、技術的には大差なく五分ですが、スピードの点で、圧倒的に中国選手がまさっています。

そこで今回は、中国チームがヨーロッパに遠征したさいに、イギリスのシェーラー氏が記した「中国チームの印象」から抜萃して皆さんの参考にしていただこうと思います。

圧倒的なスピードの侯、湯

――侯加昌、湯仙虎の二人は、非常に動きが速く、おそらく現役では一番速いのではないだろうか。

基本的には、二人ともシングルスでその優秀な力を発揮し、成功しているのも、そのスピードという宝をもっているからだと思う。

もちろん、彼らはこの他にも多くのすぐれた点をもっているのは言うまでもないし、足が速いというだけで、優秀なプレーヤーになれるというものではない。

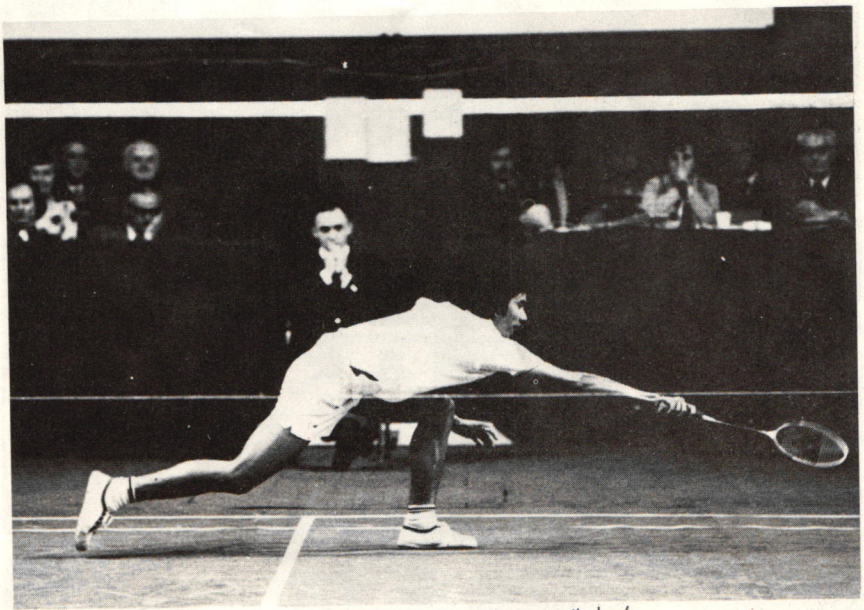
彼らの途方もない打ち方と、戦術的知識は賞讃に値いするものである。足が速いために、ネットへの突っ込みが速く、ネット・プレーが上手である。そして、二人ともシャトルを打つというよりも、突きさすという感じである。

そして、そのときシャトルは他のどんな選手よりもネットぎわに落とすことができたのである。

このドロップ・ショットよりももっと印象深かったのは、ドリブン・クリアーである。

彼らが、バック・ラインへシャトルを打つとき、ただ単に打つというのではなく、相手をまず、ショートサービス・ライン近くへ引きよせておいてから、攻撃的なクリアーを送りこむのである。

そして、このクリアーによって相手は、シャトルに追いつくのがせいいっぱいで、反撃でき



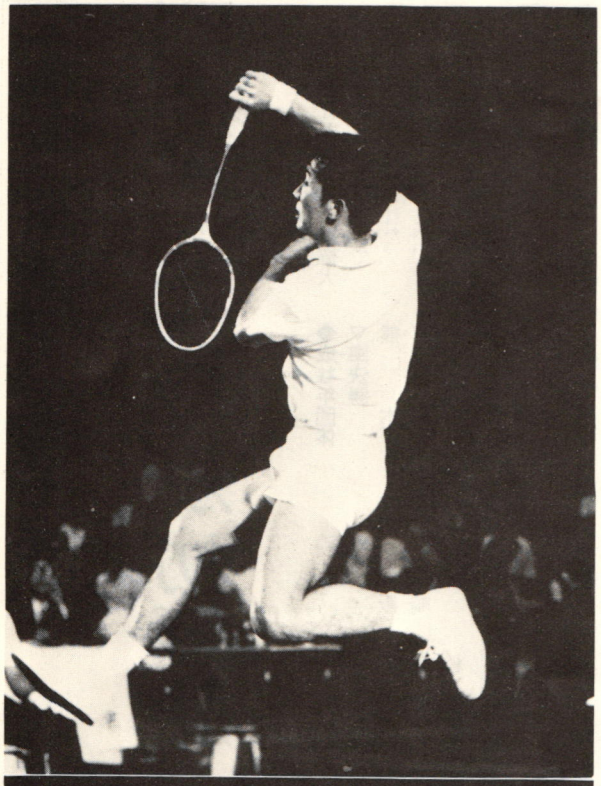
インドネシアのルディ・ハルトノ

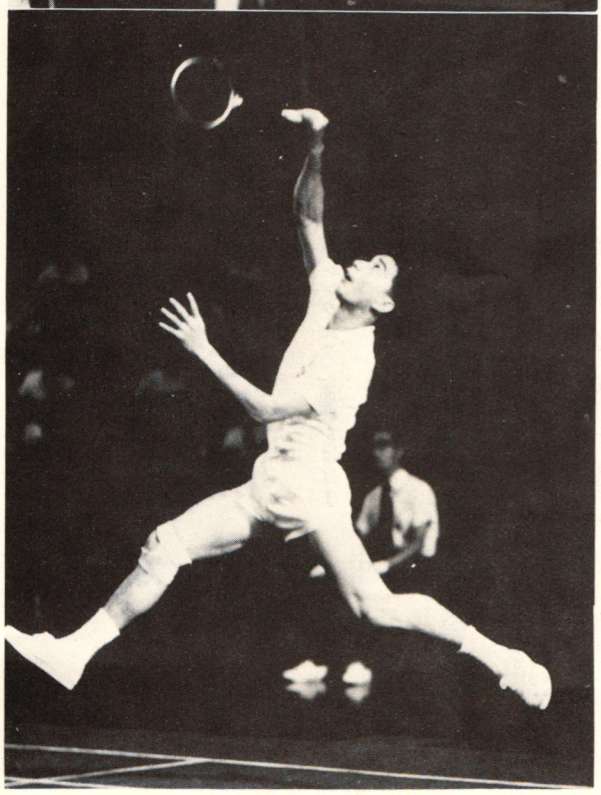
●連載

体当たり

中国選手にスピ

●*Ippei Kojima*





中国の侯加昌(上)と湯仙虎

なくなってしまうのである。

フェイントと選球の素早さ

リストを強くまかせたプレーは、この二人の中国選手の大きな特徴であった。そして、湯は非常にフェイントのきくカットをもっており、これによって常に試合を有利に進めていた。

ラインぎりぎりのシャトルに対するイン・アウトの判断もすばらしかった。

どんなにきわどいシャトルでも、彼らはすばやく正確に判断をくだしていた。

この二人、侯加昌と湯仙虎はダブルスを組んで、やはり無敵であったが、シングルスにくらべると、それほど圧倒的とはいえなかった。

ダブルスの試合で、中国のペアはシングルスと同じプレーをしており、ダブルスだからといって特別に変わったことはなかった。

この点は注目に値いするし、また他の国々の選手たちにとっても何らかの教訓になろう。

□ □ □

以上のとおりですが、非常に的確な技術評といえます。

バドミントンの三原則である〝より高く、より速く、より前で〟を忠実に守ってプレーできるほど強いものはない。

中・高校生の皆さんには、ここでます、コートを速く走るために、コートの中の練習だけでなく、屋外でのトレーニングも必ず実行し、基礎体力の充実を心がけるよう強く望みます。

第13回全日本教職員選手権

門間（和歌山）、北島（島根）が初優勝

酷暑の熊本でベテラン・若手が好試合を展開

第13回全日本教職員選手権大会は、8月8日から11日まで、熊本市体育館で開催された。

炎天下の大会であったが、男子団体戦は26チーム、同シングルスは一〇六名の選手が参加するなど非常に充実した大会であった。

◆一般男子団体

▽準々決勝

石　川 3－0 神　奈　川
熊　本 3－0 岐　阜
愛　知 3－2 和　歌　山
滋　賀 3－1 宮　城

▽準決勝

石　川 3－2 熊　本
滋　賀 3－0 愛　知

▽決　勝

滋　賀 3－2 石　川

◆一般女子団体

▽準決勝

岐　阜 2－0 福　井
富　山 2－0 福　岡

▽決　勝

富　山 2－0 岐　阜

◆成壮年団体

▽準決勝

熊　本 2－1 大　阪
石　川 2－0 長　崎

▽決　勝

熊　本 2－1 石　川

◆一般男子シングルス

▽準々決勝

工藤（熊本）2－0武藤（和歌山）

滋賀のエース藤原を降してベスト8入りした若手武藤も、工藤のテンポの速い攻撃に完敗した。

門間（和歌山）2－0別井（栃木）

森（和歌山）2－0二上（富山）

長いリーチを生かし、自分のペースでラリーをつなぎ、楽にコマを進めてきた二上は、絶好調の森に先手先手をとられ、反撃の糸口をつかめぬまま敗退。

関（東京）2－0藤上（滋賀）

▽準決勝

門　間　2（15－3　15－9）0　関

●門間は関のドリブンクリアーによる攻撃とカットを警戒しながら、ていねいにラリーをつなぎ、走りまくってポイントを重ね、決勝へ進出した。

工　藤　2（15－6　15－8）0　森

●森は二上戦の時にくらべると攻撃に鋭さがなく、逆に工藤に対して受身の展開となり、主導権をとれぬまま敗れた。

▽決　勝

門　間　2（15－9　15－14）0　工　藤

●準決勝までの試合ぶりからみて、工藤優勢と思われたが、フタをあけてみると、相変わらず走って拾いまくる門間に対して、工藤はフットワークが重く、返すのがせいいっぱいといったシーンもたびたび見られた。

そして工藤は打っても逆に切り返されるようになり、第一ゲームの接戦に敗れると、第二ゲームは完全に門間のペースとなり、シングルス二連覇をはばまれた。

門間は団体戦、個人戦ダブルスにおける不振をこのシングルスで一挙に取り返す健闘で、初優勝をとげた。

◆一般男子ダブルス

▽準々決勝

藤原・藤上（滋賀）2－0 上田・安彦（千葉）
渡部・木戸（宮城）2－0 西城・平田（三重）
杉田・瀬戸（神奈川）2－0 平松・八神（愛知）
今井・桐生（群馬）2－1 原・長谷川（石川）

▽準決勝

藤原・藤上 2－0 渡部・木戸

●ベテラン渡部のうまいリードとコーナーワーク、木戸の強烈なスマッシュでベスト4に進出してきた宮城ペアに対し、藤原・藤上は、ミスの少ないプレーに徹し、疲れのみえた渡部・木戸組をストレートで降した。

杉田・瀬戸 2－0 今井・桐生

●準々決勝で大接戦の末、原・長谷川組を降した今井・桐生の若手ペアと、ベテラン杉田・瀬戸組の試合は、あっけないほど簡単にベテラン・ペアに軍配が上がった。

シャトルを沈め、相手に上げさせて、いっきに打ち込みたい今井・桐生組だったが、中間ボールを巧みに使われ、タイミングをはずされ、最後まで攻撃らしい攻撃をできず敗れた。

▽決　勝

藤　原
藤　上　2（15－9　17－14）0　杉　田
　　瀬　戸

●準決勝につづいてラリーをていねいに続けてムリをしないゲームをみせた藤原・藤上組が勝利をものにした。第一ゲームの接戦をぬけだすと、第二ゲームは中盤からリードを奪ったまま、ダブルス二年連続優勝をとげた。

ナカヤマテニス
平均年令27才のヤングパワー。
(045)651-2020
●横浜市中区石川町2-84


ベテラン健在!!　杉田(左)，工藤両選手

◆一般女子シングルス

▽準決勝

北島(島根) 2 (11-8, 11-5) 0 門間(和歌山)

●伏兵北島は、門間の変則攻撃に対して、落ち着いたラケットワークで返球、バックラインに追いつめてネットぎわに足の短いドロップを落とすなど、門間をゆさぶり、疲れからミスのでたところにつけ込み、ストレート勝ちした。

塩崎(富山) 2 (11-5, 11-4, 9-11) 1 堀川(新潟)

●第一ゲーム、堀川のたたきつけるような攻撃と、クロスのネットプレーでゆさぶられ、接戦の末落とした塩崎は、第二ゲーム前半のせり合いによく粘り勝ちし、ポイントを引き離すと、自分本来のプレーをつかみファイナルゲームに持ち込んだ。

ファイナルゲームにはいっても塩崎は、打球点に早くはいり、堀川に打つチャンスを与えず、逆にドロップとクリアーを有効に組み合わせる試合運びで決勝に進出した。

▽決勝

北島 2 (11-7, 11-7) 0 塩崎

●順当なら塩崎の初優勝と思われたが、準決勝での疲れがどうひびくか注目された。すると、やはり疲れが回復しないのか、塩崎の動きにいまひとつの冴えがなく、また北島の伸び伸びとしたプレーは、さらに塩崎を疲れさせ、ストレートで北島が初優勝した。

慎重なレシーブと、頭脳的なコンビネーションで強豪を倒して栄冠を手にした北島の大健闘は見事であった。

◆一般女子ダブルス

▽準決勝

芳田・塩崎(富山) 2-0 広沢・名和(岐阜)

池尻・栗原(千葉) 2-1 功刀・光中(東京)

▽決勝

芳田・塩崎 2-0 池尻・栗原

◆30歳シングルス

▽準決勝

香島(長崎) 2 (15-7, 15-2) 0 南(熊本)

田中(千葉) 2 (15-6, 15-3) 0 西田(熊本)

▽決勝

香島 2 (15-6, 15-8) 0 田中

◆30歳ダブルス

▽決勝

南西田(熊本) 2 (15-7, 18-16) 0 南大世古(三重)

◆40歳シングルス

▽準決勝

毛利(岡山) 2 (15-8, 15-6) 0 元田(熊本)

本郷(熊本) 2 (15-4, 15-2) 0 山上(岡山)

▽決勝

毛利 2 (10-15, 17-14, 15-2) 1 本郷

◆混合ダブルス

▽決勝

佐藤三原(茨城) 2 (15-7, 13-15, 18-15) 1 河田広沢(岐阜)

連載●第四回

ビギナーへの手紙

ハイクリアーが打てるまで

■羽戸民敦

クリヤーの重要性

ハイ・クリアー、ドリブン・クリアーは、バドミントン競技で、非常に大事なフライトである。その特徴をいくつかの本から拾ってみよう。

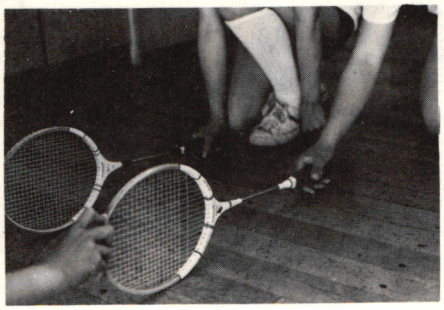
「これはバドミントン独得のもので、高く遠く相手をコートの一番うしろに釘づけにする大きなフライトである。これをうまく使うか、使わないかによって、だいたいゲームの内容が変ってくる。やはり上手な選手、強い選手はハイ・クリアーがしっかりと打てる。(中略)ハイ・クリアーを少し低くしたのがドリブン・クリアーで、ハイ・クリアーより攻撃的な要素を含んでいる。今はほとんどハイ・クリアーを使わずに、ドリブン・クリアーを使うようである。ドリブン・クリアーにも特に目標物はない、これは、もっとスピードがあるし、難しくなる。だいたいハイ・クリアーというのは自分が不利な体勢の時に、もう一つもとへ戻そうという意味で、奥へ打ち込んで時間的にも余裕を作って体勢を立て直すという意味がある。ドリブン・クリアーでは、相手をうしろへ押し、それによって相手の体勢をくずしていくという攻撃的要素が含まれる。」(堺栄一著『バドミントン』講談社、S48・9刊)

「ハイ・クリアーはロング・サービスと同じく遠く高く飛ばすことが原則である。ストロークはより遠く、より速いことが大切で、それができないとなかなか他の打法に進めないから、バドミントンは『ハイ・クリアーで始まり、ハイ・クリアーで終る競技である』といっても決してオーバーな表現ではない程の基本打法であるから、打点のタイミングが大切である。思いきり打ったシャトルが、次第に失速降下するフライトになるので、始めに考えていたほどシャトルは飛んでくれない。(中略)ドリブン・クリアーは攻撃的補助の役目を果してくれるフライトである。積極的な攻撃でスマッシュにより止めを刺すと仮定した場合、スマッシュをすることは究極目的であり、その目的達成のために行なう手段がドリブン・クリアーと言えるわけである。」(三須徳次著『最新バドミントン教室』林書店S44・5刊)

紹介をもう一つ。

「クリアーは、自陣の後方から相手コート最後尾に向って、高く深く打ち込む。一般的には、時間をかせいでチャンスを作る起点にする、あるいは、相手の攻撃のホコ先をかわすのが目的であり、どちらかと言えば〝守り〟のストローク。」(ケネス・クロスリー著、後藤忠弘訳、川端昇市監修、バドミントン競技入門』ベースボールマガジン社S48・11刊)

上記のように大事なクリアーは、オーバー・ヘッド・ストロークはもちろん、ラウンド・ザ・ヘッド等は程々のストロークで打つことができるが、筆者が、オーバー・ヘッド・ストロークでハイ・クリアーを打つ指導を、中学生に行なった順序を記し、参考にされ、また批判して頂だきたいと思う。ハイ・クリアーを正しく打つことができれば、スマッシュもドロップも、打点の位置、タイミング、手首への力の入れ方等との工夫によって、マスターすることができると思われる。なおハイ・クリアーが打ち合えるようになるには、当然ハイ・サーブが打てなければいけないが、それについては割愛したい。



写真ⓐ

手首のかえしを大切に

① ラケットを正しく握ること。将来のことを考えて、イースタン・グリップをすすめている。(写真ⓐ参照)初心者はどうしても力一杯握ってしまうので、いつもは力を抜き、外から大きく包み込んで握手する気持、要領が肝心。

② ラケットをたてに振る。写真ⓑからⓒへ。腕はできるだけまっすぐ伸ばし、力を抜き、腕が真ん前の所で一瞬キュッと力を入れて速く振る。力を入れてすぐ抜く、ここが味噌。

ニッケン電気
平均年令27才のヤングパワー。
(045)651-2020
●横浜市中区石川町2-84

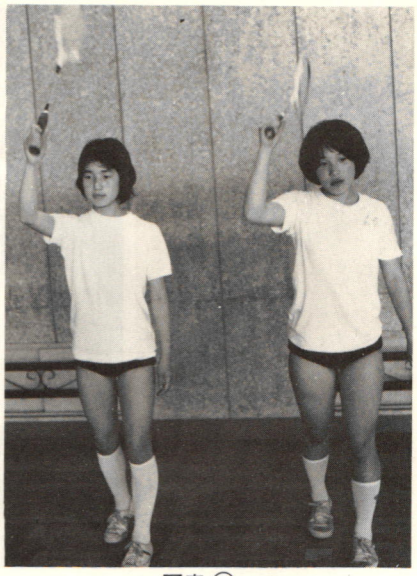


写真 ⓑ

③ 手首をかえして。写真⑤から⑥へ。オーバー・ヘッドで打つ時どうしてもラケットの面が曲り易い。曲ると力が有効に働らかないし、スマッシュの時ハネが落ちてしまい威力が半減する。手首のかえしの感覚を、ここでしっかり身体で憶える。

④ 頭上での素振り。肘をまげず、腕をまっすぐ真上に伸ばし手首をかえして面を正面に向けてかまえる。肘を少し後へ引いて、頭上で音が出るように。(写真ⓔ)

楽しみながら

ここまでの間に、私は五つの運動、遊び、練習をとり入れた。

(その一) ハンカチ落し。長いタオルから始めて、小さいハンカチまで。②の瞬間的な握力、運動神経の養成(?)に好適。

(その二) 初心者は力を抜くことがへただ。必要な時に、力をみなぎらせ、すぐ抜いてリラックスする状態のくり返し。この練習には徒手体操は必修課目。



写真 ⓒ

(その三) 手首のトレーニングにはいろいろあるが楽しい練習を一つ。シャトルのケースを床におき、カバーしたラケットであおいで転がす。石のある地面でやったり、カバー等で障害物を置いたり、グループでリレー競走すると熱中しながら力もつく。カバーしたラケットにプレスをつけたらどうでしょう。

(その四) シャトル拾い。上級生が打つハイ・サーブを、走っていって頭上で捕える。クリアーを打つ位置を早く身につけるため。

(その五) ハイ・サーブ

最初の仕上げ

ここまでくれば

⑤ 肘を下げずに後へ引いてからの素振り、写真ⓕⓖ、夜寝る前に三百回、五百回、千回と目標を伸ばしてはどうでしょう。

⑥ 上級生や教師がハイ・サーブを打ち、落下予想地点で、写真ⓕの姿勢で打ち返す。うまく打てたら続けましょう。

⑦ 上級生のサーブを他の地点から落下地点へ動いてきて(走ってきて)打たせる。

⑧ 二人で、さあ楽しく打ちあ

いましょう。

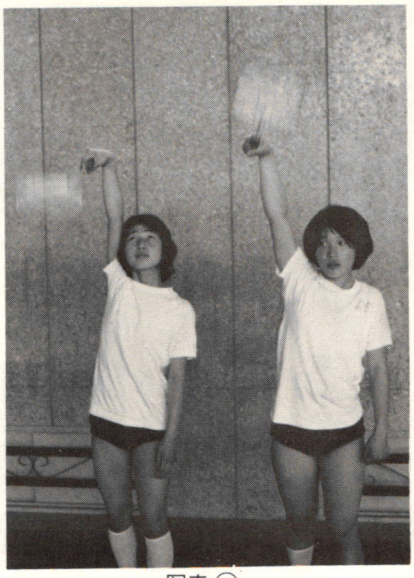
最後に　再び引用を

前掲『バドミントン』第四章勝つための要点から

・初めて対戦する場合、試合に臨んで他人の試合を見るということが第一条件であるが、それが見られないケースが当然あるわけである。そして初めてポンと当る、そういう初めて対戦する相手にはどうしたら良いかという問題がある。（中略）そして、もう一つは、相手がどんなクセをもっているかを意識して見る方法がある。それはだいたいハイ・クリアーというか、ドリブン・クリアーというか、クリアーを何本か打っているうちによそ見当がついてくるものである。なぜならば、バドミントンにおいて一番大事なのはハイ・クリアーである。それをしっかりと打てるものだったら、その選手は、相当ほかのストロークもしっかりしていると考えてよい。それがあまり上手でない選手は、やはりほかのストロークにバラつきがある。たとえば、ハイ・クリアーをしっかり打てなくても、スマッシュだけで押してゆく、強い選手がいる。強いかもしれないが、やはりネットが甘かったり、ということがある。ハイ・クリアーをしっかり打てる選手は、ほかのストロークもだいたい安定している。そこから判断してやっていける。

……（以下略）」

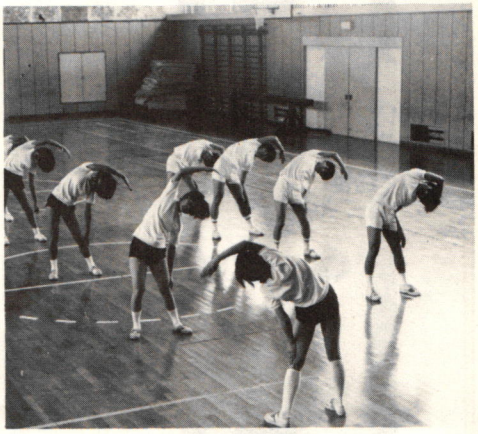
（つづく）



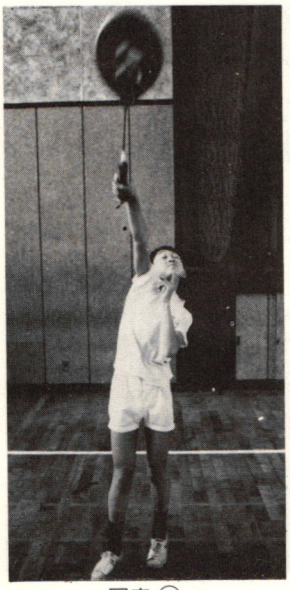
写真ⓔ



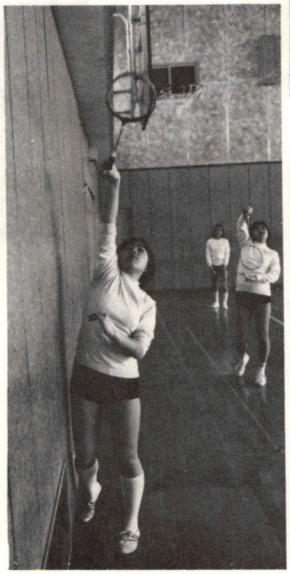
写真ⓓ



徒手体操も大切です



写真ⓕ



写真ⓖ

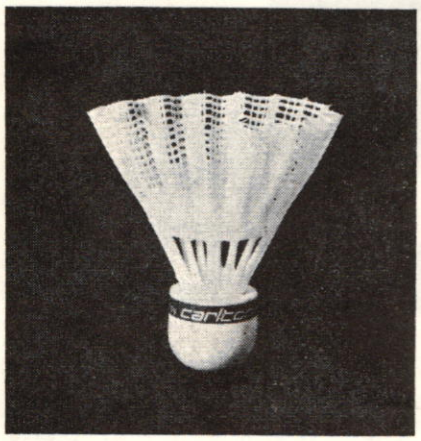


ハンカチとり……

カアルトン ニュートーナメント は水鳥？

ナイロンを感じさせないナイロン。

新開発された、カアルトン〝ニュートーナメント〟シャトルは、ナイロンと云うよりも英国製高級水鳥シャトルに最も類似した性能を備えた、新しいシャトルです。



ニュートーナメントの特徴

●打球音が変った●ラケットから離れる感じが変った●ネットでのターンノーバ（回転）が変った●スピン●シャトルに対する視覚度（よく見える）がよくなった●飛翔のときの一貫した安定性が増加された。

メトロレジャー株式会社

東京都千代田区外神田5-6-4 TEL. 833-3661（代）

＝全国高校総合体育大会＝

男子は正強（奈良）が二年ぶり、女子は新潟青陵に栄冠輝く



昭和49年度全国総合体育大会バドミントン競技会は、八月一日から佐賀県嬉野社会体育館ほかの会場で開催された。

連日の猛暑にもめげず、若人たちは見事なファイトで祭典をもりあげた。

そして、団体戦では男子が奈良県の正強高校が3－2で日大山形高校を降し、二年ぶり三度目の優勝をかざり、女子は、昨年まで無敵を誇った大阪の四条畷学園を新潟の青陵高校が3－0のストレートで破って実に七年ぶり二回目の優勝という快挙をとげた。

一方個人戦では、男子単で福井県勝山高校の長谷川が圧倒的な強さで栄冠を勝ちとったほか、植野、長谷川・諏訪組、関根・大塚組がそれぞれ優勝した。

◆男子団体

▽準々決勝

金沢工（石川）3－0 瓊浦（長崎）
正強（奈良）3－0 逗子開成（神奈川）
勝山（福井）3－0 日大鶴丘（東京）
日大山形（山形）3－0 滑川（富山）

▽準決勝

正強（奈良）3（単2－1 複1－1）2 金沢工（石川）
日大山形 3（単2－1 複1－1）2 勝山（福井）

▽決勝

正強 3（単2－1 複1－1）2 日大山形

村田	12－15	15－6	0
富田	15－8	15－7	加藤
2	15－7	0	中島
○吉岡	15－5	18－17	0
春井	15－0	15－7	尾関
2	0	0	1
○村田	15－5	15－6	0
富田	15－7	15－8	柴田○
2	0	0	1
棄権	15－7	12－15	米山○
米山○	17－15	15－7	加藤

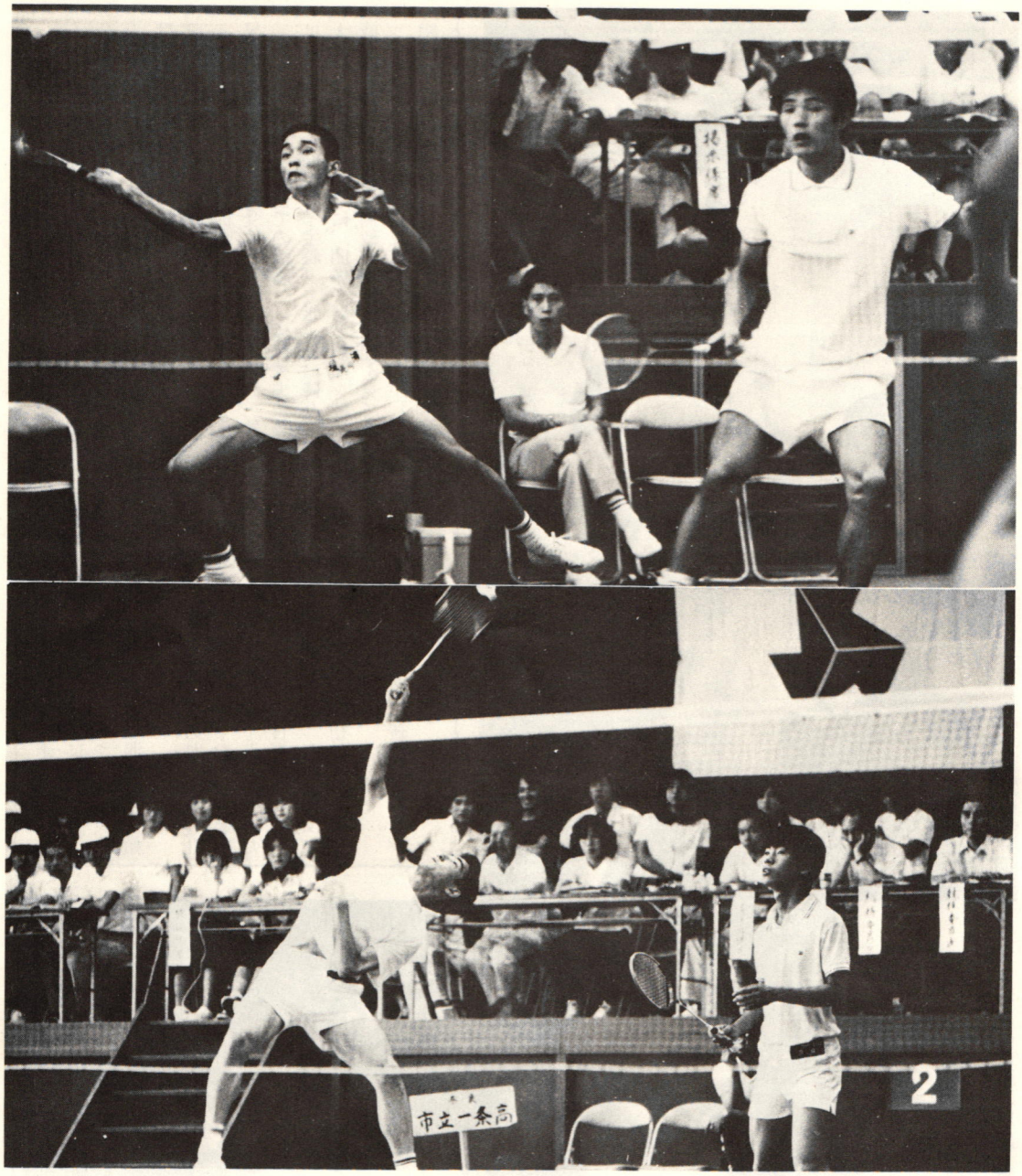
◆女子団体

▽準々決勝

四条畷（大阪）3－1 富田女（岐阜）
藤園女（富山）3－2 奈良一条（奈良）
善通寺一（香川）3－1 真岡女（栃木）
新潟青陵（新潟）3－0 成安女（京都）

▽準決勝

四条畷 3（単1－1 複2－0）1 藤園女



男子ダブルス3位の福本・菅組（上）と塚本・小倉組（下）

新潟 青陵 3
単 1—0
複 2—0
0 善通寺

▽決勝
新潟 3 単 1—0 複 2—0 0 四条畷
青陵
○関根 大塚 2 15—2 15—2 0 北村 金沢
○海老 平野 2 15—8 15—7 0 植野 石川
○関根 2 11—2 11—2 0 北村

◆男子シングルス
▽決勝
長谷川（勝山） 2 15—5 15—5 0 滝川（金沢市工）

◆女子シングルス
▽決勝
植野（四条畷） 2 11—3 8—11 12—11 1 山本（奈良一条）

◆男子ダブルス
▽決勝
長谷川 諏訪（勝山） 2 15—11 15—8 0 滝川 船本（金沢市工）

◆女子ダブルス
▽決勝
関根 大塚（新潟） 2 15—2 15—2 0 原田 藤原（山陽女）

福岡、佐賀両県で開かれた若人の祭典「全国高校総合体育大会」の女子バドミントンで七年ぶり三回目の団体優勝を成し遂げた新潟青陵高校チームが、八日夕、特急「白鳥」で新潟駅に〝がい旋〟し、同校生徒会や父兄、一般市民の歓迎を受けた。

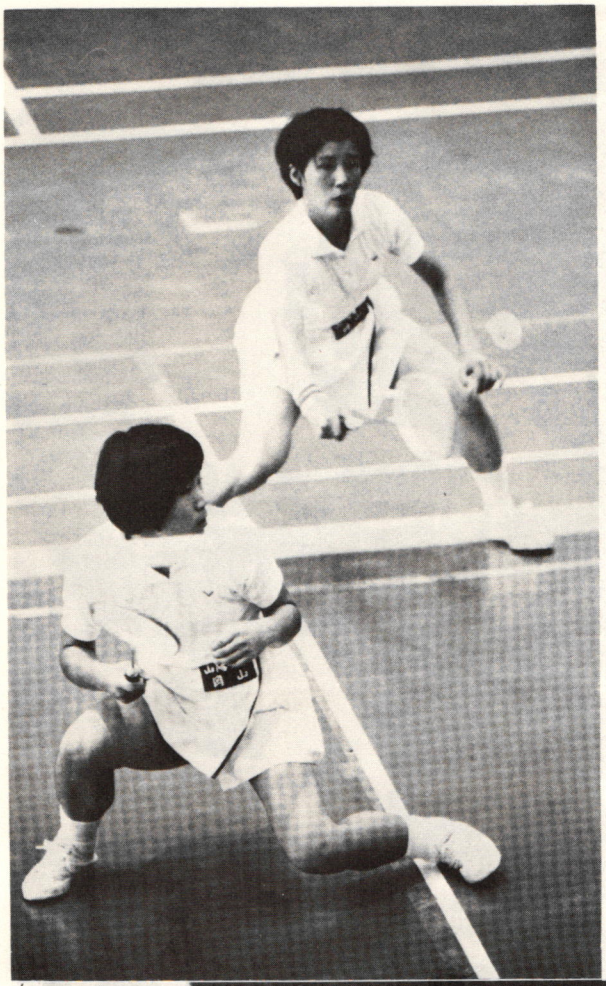
同校チームの今大会での活躍は目ざましく、関根和子主将、大塚ソノエ選手を中心に、団体戦では決勝で昨年まで無敵を誇って来た四条畷学園（大阪）を相手に、ダブルス、シングルスとも圧倒的な強味を見せ3－0で完勝。個人戦ダブルスでも関根・大塚組が岡山県山陽女子高校の原田・藤原組を寄せつけずに初優勝。シングルスでも大塚選手が三位入賞を果たした。今や〝世界NO1ペア〟として知られる相沢・竹中組以来の快挙。

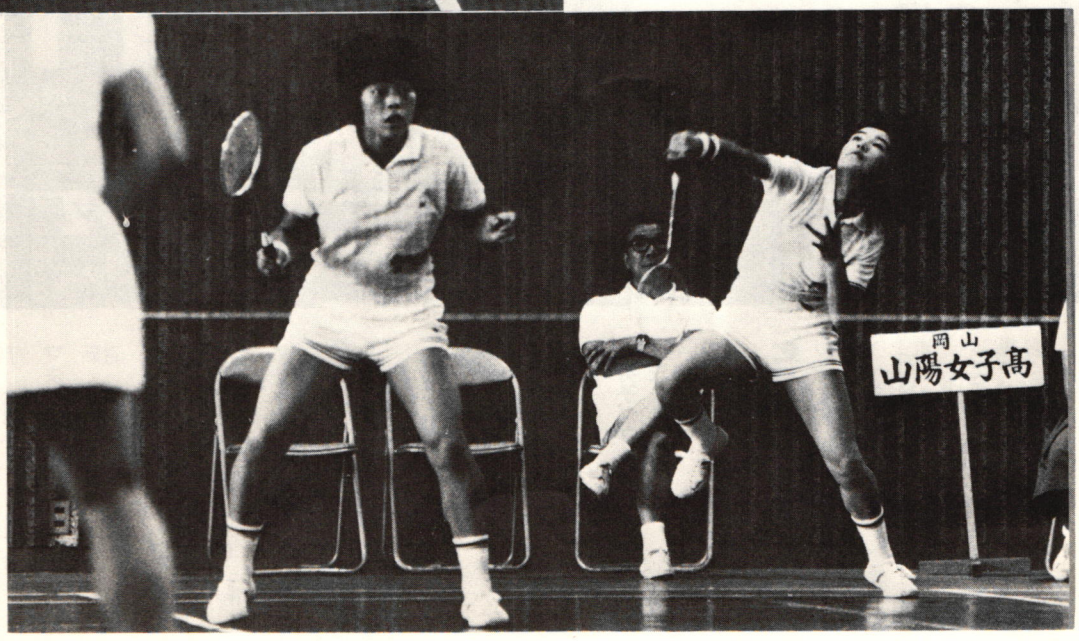
佐藤秀夫監督、関根主将以下ホームに降り立った十人の選手は、駅頭を埋めた三百人余りの歓迎団を見てまずビックリした表情。しかし、母校バトントアラーの祝勝の演奏、本間忠孝校長の「よくやって来てくれた」のねぎらいの言葉に、胸にジーンと来るものがあってか、次第に各選手の目から涙がこぼれ始めた。

生徒会から贈られた大きな花束を抱えて、選手たちは夕暮れの街に優勝パレードに出かけた。

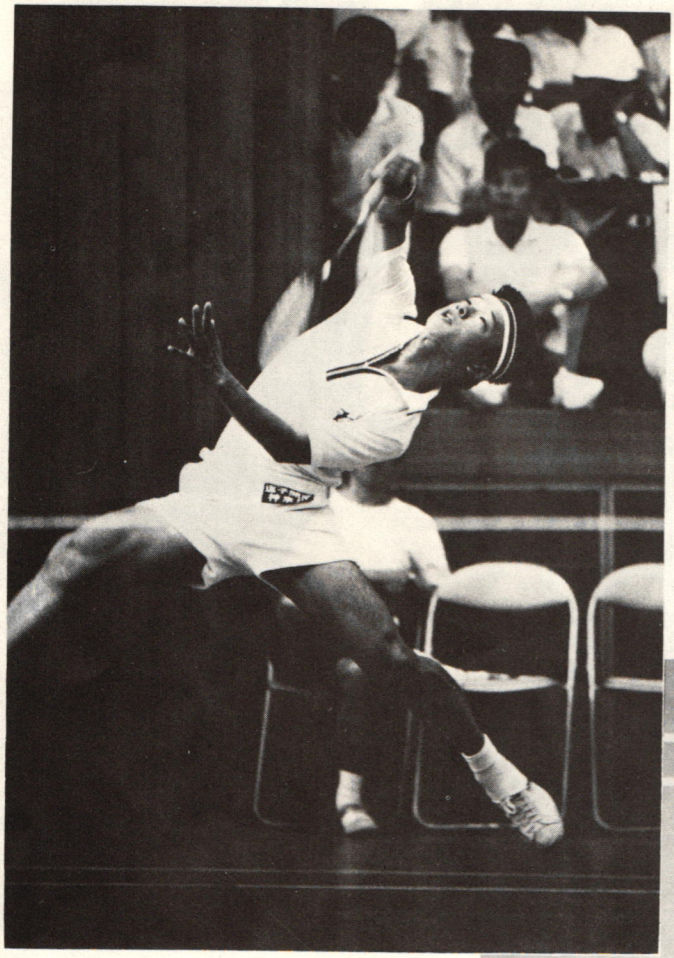
同校チームは、日本代表として韓国で開かれる「日韓高校スポーツ大会」に、初の海外遠征をする予定。

（新潟日報から）



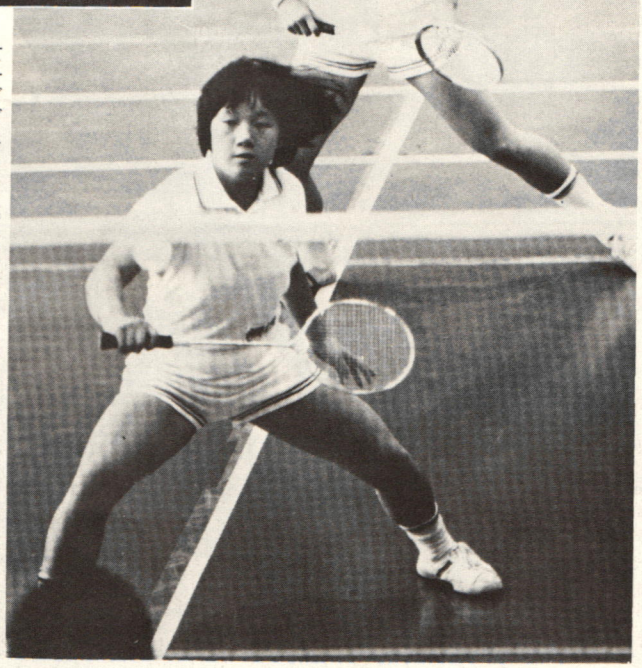


女子ダブルス準優勝の原田・藤原組（上）と優勝関根・大塚組（下）



男子シングルス3位の小林（神奈川・逗子開成）

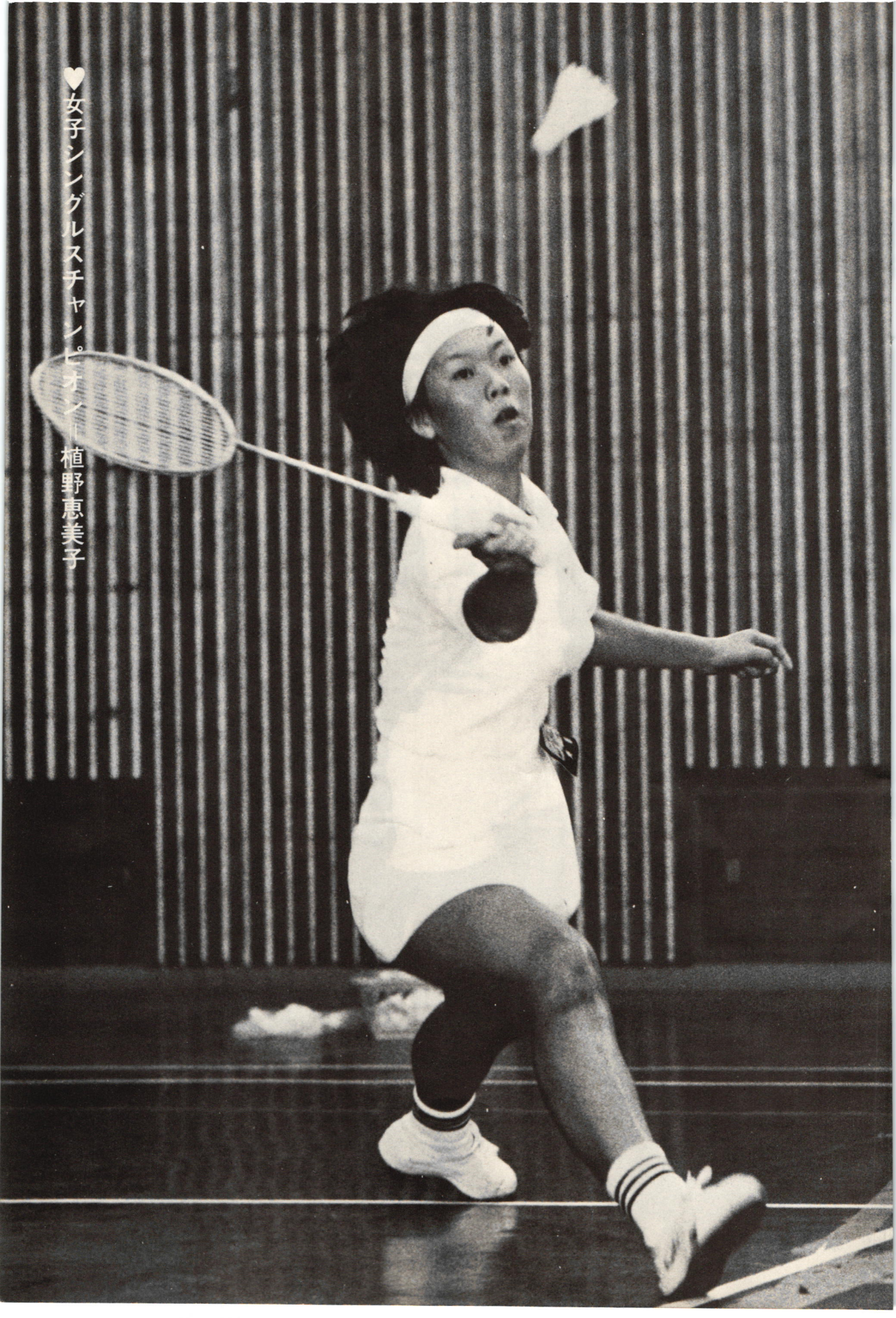


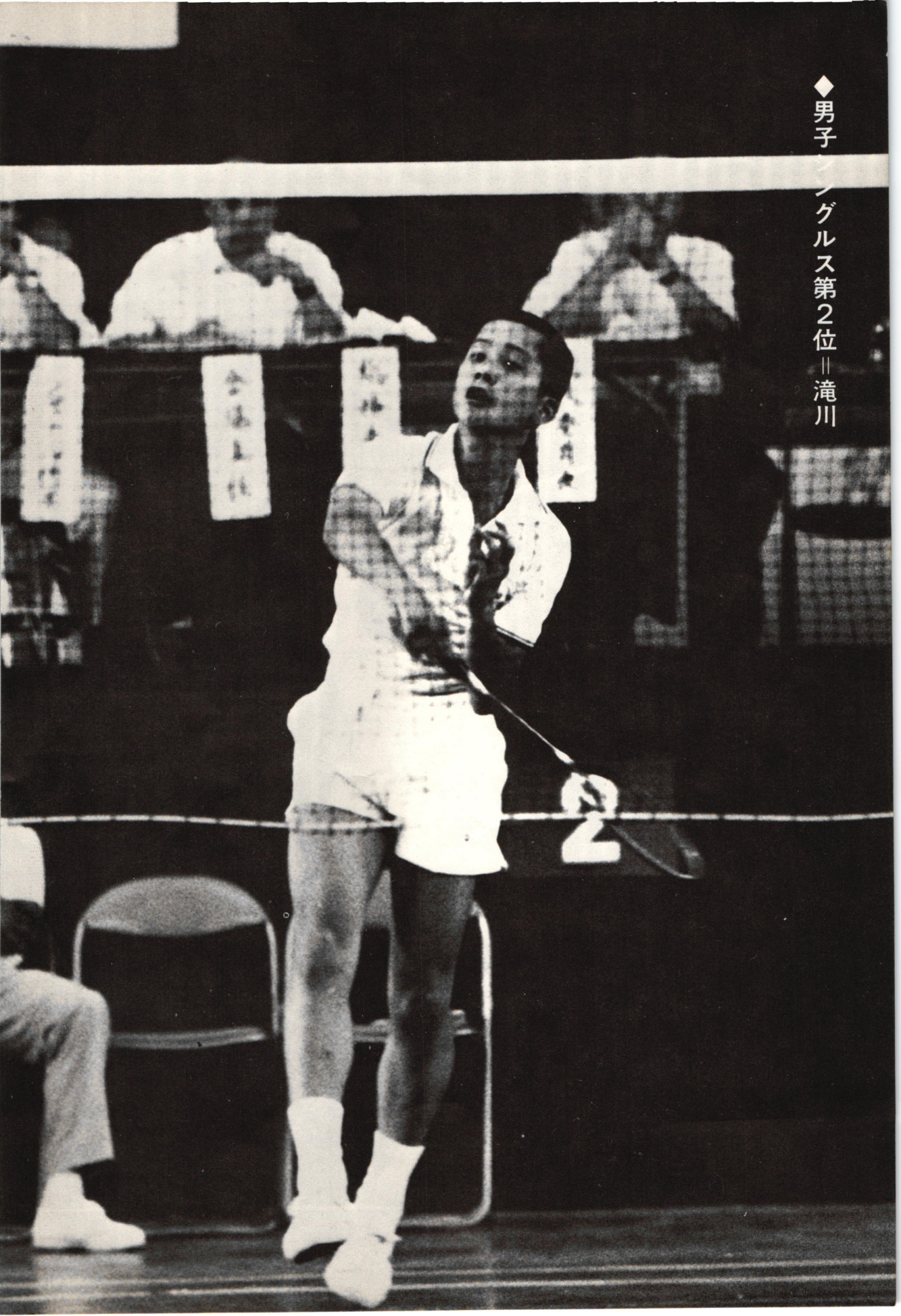


女子ダブルス3位の海老・平野組（新潟・青陵）



◆男子シングルスチャンピオン＝長谷川博幸


♥女子シングルスチャンピオン
植野恵美子



◆男子フリースタイル　グルス第2位＝滝川

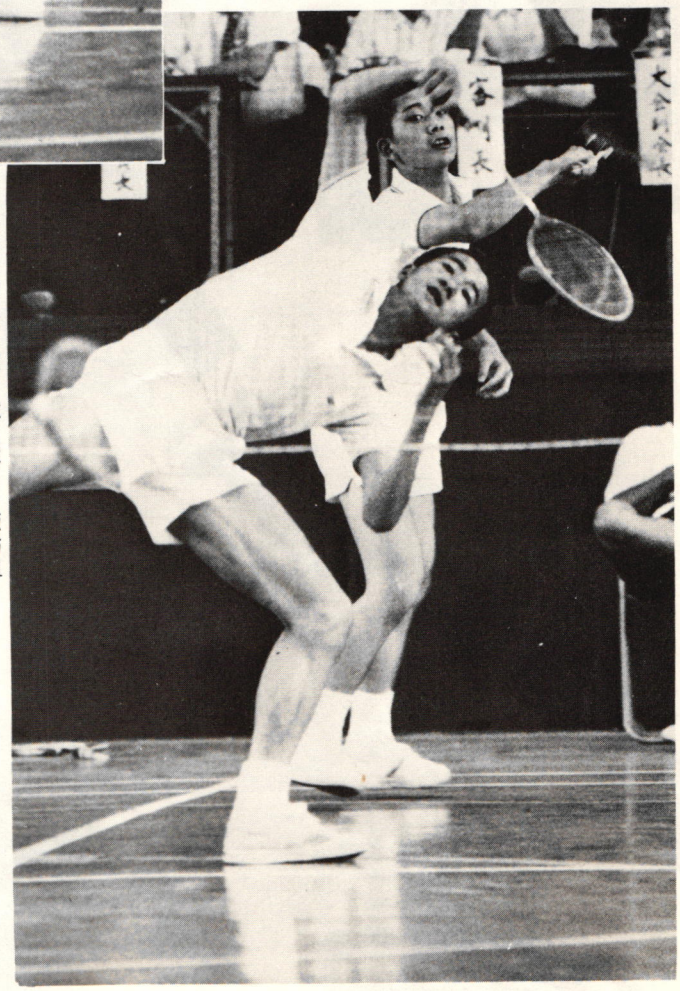


♥女子シングルス第2位＝山本

勝つも敗れるも全力!!

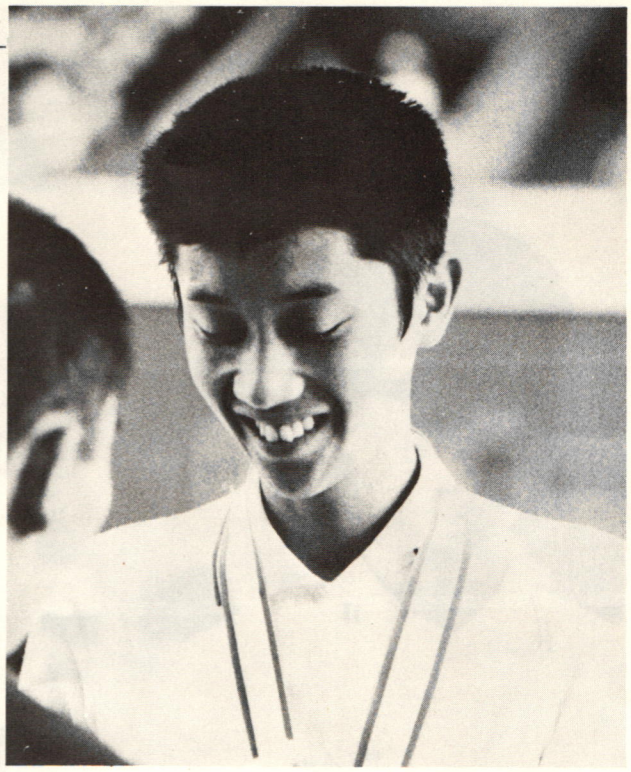


男子ダブルス優勝＝長谷川・船本組



男子ダブルス第2位＝滝川・諏訪組

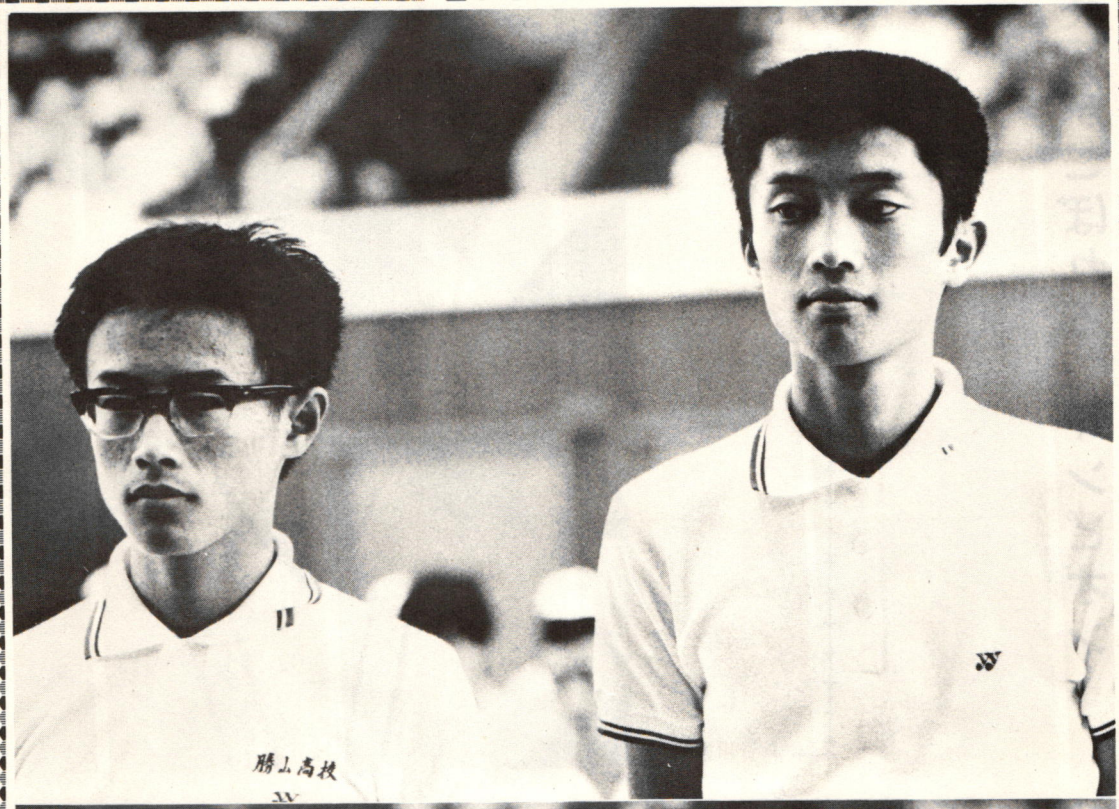
笑顔がこぼれるチャンピオン



長谷川博幸



植野恵美子



長谷川・船本組



関根・大塚組



先生!!

優勝の瞬間、恩師片岡先生の胸にとびこむ植野選手

アジア大会速報

日本女子、インドネシアに敗る

第7回アジア競技大会は、イランの首府テヘランで9月1日から開催され、多くの種目で中国の参加が認められ、熱戦がくり広げられている。

注目のバドミントン競技は男女とも団体戦決勝を残すだけとなったが（9月8日現在）、日本チームは不調で、男子は5位、女子は3位に終わり、残る男女個人戦に期待するだけとなった。

◆男子団体戦

▽一回戦

日本3（単2－1 複1－1）2タイ

▽二回戦

日本0（単0－2 複0－1）3パキスタン

▽5～8位決定戦

日本3（単2－0 複1－0）0フィリピン

▽5、6位決定戦

日本3（単1－2 複2－0）2香港

梅野尾0（5－15 1－15）2揚美良○

飯野0（2－15 11－15）2阮宝添○

▽3位決定戦

日本3（単2－0 複1－1）1韓国

○湯木2（12－10 11－8）0玉ト銀

○西尾2（11－8 11－8）0呉研漢

▽準決勝

日本2（単2－1 複0－2）3インドネシア

○相沢2（11－6 11－7）0スリ

○湯木2（11－5 11－2）0アテレジ

相沢 竹中1（15－4 14－18 14－10）2イメル・ダアテレジ○

湯木 池田0（14－17 9－15）2ニナ・レジナミナル○

竹中0（8－11 7－11）2タティ○

▽3位決定戦

相沢 竹中1（12－15 17－14 7－15）2玉ト銀○宋香順

○湯木 池田2（15－12 17－14）0呉研漢 朴玉蓮

池田○梅野尾2（15－8 15－8）0侯宏昌 黄文興

飯野○土田2（15－11 15－7）0揚美良 陳国明

○土田2（15－8 15－7）0黄文興

◆女子団体戦

★女子団体戦ではもちろん優勝を、男子もメダルを期待された本大会であったが、女子はインドネシアに逆転負けを喫してしまった。シングルスを連勝し、好調なスタートだったが、ダブルスを一つも取れず、竹中も、タティ・スミラに完敗し、三位に甘んじた。

男子は、タイには接戦の末勝ったものの伏兵パキスタンにストレートで敗れた。この試合シングルスで、飯野、土田が相次いでストレート負け、そして全英ベスト4の池田・梅野尾のダブルスもストレートで敗れ、意外な結果で終わった。

他国の情勢は、9月8日現在判明しているところは、男子準決勝で、インドネシアが3－0でインドを、中国がやはり3－0でパキスタンを破って決勝で対戦する。

■ご協力ありがとうございました

本誌5月号（第55号）でお願いしたアンケートに対し、多くの読者の方々からお答えいただきましたが、結果は次号で発表する予定です。

また、全応募者の中から抽せんで次の方々に、ヨネックススポーツ提供のバドミントン用ソックスをお送りいたしましたので、ご愛用ください。

（敬称略・順不同）

浪江　博子（渋谷区富ヶ谷）
井上　健三（品川区西大井）
海野　英哉（目黒区中目黒）
横田　利弘（奈良市大安寺町）
玉井　利果（小金井市東町）
佐々木京子（横浜市戸塚区）
林　良二（神戸市兵庫区）
植竹　芳雄（鳩ケ谷市本町）
黒沼　明（天理市別所）
木地谷博人（横須賀市走水）
鈴木　英昭（鳩ケ谷市本町）
和久　真一（杉並区下井草）
山田　久子（盛岡市肴町）
本間　英明（札幌市豊平区）
川又　辰夫（川崎市幸区）
市川　大介（大阪府高槻市）
浅妻　茂行（新潟県西蒲原郡）
永尾　勲（伊万里市立花町）
大越　久義（八戸市鮫町）
岡本　咲子（習志野市袖ケ浦）

また、貴重な資料と原稿・写真をお送りくださった次の方々に、ヨネックススポーツ提供の最高級選手用ラケットをお送りいたしましたので、さらに練習をつんで、頑張ってください。

（敬称略）

鈴木　洋史（横浜市鶴見区）
地主　大造（横浜市旭区）
大森　幸衛（都下立川市栄町）
柳沢　純子（杉並区荻窪）

■ファイル品切れのお知らせ

本誌専用合本ファイルを皆様にお取次ぎしてまいりましたが約6か月間で、編集部で用意したファイルをすべて配布してしまい、品切れとなりました。

本誌専用ファイルは、特別注文品ですので、ある程度多くの数がまとまりませんと、製作することができませんので、ファイルご希望の方はしばらくご辛ぼうくださるようお願いいたします。もし、読者の方々からのご希望が多い場合には、再版することも考えております。その際には本誌誌上でお知らせいたします。

協会通信

大阪協会

第25回五大都市体育大会バドミントン競技会は、7月5日、6日、7日の三日間、大阪市東淀川体育館で開催されたが、男子は横浜が、女子は大阪がそれぞれ優勝した。

▽男子団体戦

名古屋5－0神戸、大阪3－2名古屋、横浜5－0神戸、横浜3－2大阪、京都3－2神戸、京都3－2名古屋、横浜5－0名古屋、大阪5－0神戸、大阪4－1京都、横浜5－0京都

〔順位〕 1位＝横浜、2位＝大阪、3位＝京都、4位＝名古屋、5位＝神戸

▽女子団体戦

名古屋5－0神戸、大阪5－0名古屋、横浜5－0京都、大阪3－2横浜、大阪5－0京都、横浜5－0神戸、京都5－0神戸、大阪5－0神戸、横浜5－0名古屋、京都4－1名古屋

〔順位〕 1位＝大阪、2位＝横浜、3位＝京都、4位＝名古屋、5位＝神戸

優勝チームのメンバーは次のとおり。

（男子・横浜） ＝杉田博、鈴木勝之、小島一平、宮川秀樹、高橋清、鎌田哲

（女子・大阪） ＝高田幹子、乾須賀子、仲西喜美代、気谷悦子、本田富美子、貴田絹子

広島県協会

第6回個人総合県バドミントン選手権大会は、5月12日県立体育館で行なわれ、結果は次のとおりでした。

◆男子シングルス

▽準決勝

矢野（日立）2－0田上（NK）
杉之原（友クク）2－1山岡（三菱）

▽決勝

矢野 2－0 杉之原

◆女子シングルス

▽準決勝

広田（広大）2－0大坪（広大）
松本（広大）2－0沖野（広大）

▽決勝

広田 2－0 松本

◆男子ダブルス

▽準決勝

杉之原・柏木（友クク）2－1安達・大土井（三菱）
山岡・占部（三菱）2－0永井・草野（広大）

▽決勝

杉之原・柏木 2－1 山岡・占部

◆女子ダブルス

▽準決勝

広田・沖野（広大）2－0大坪・藤井（広大）

▽決勝

堀江・山下（日製）2－0前田・菅波（広大）

▽決勝

堀江・山下 2－0 岡山・藤井

松本・岩崎（広大）2－0山崎・大倉（第一女）

▽決勝

公本・岩崎 2－1 広田・沖野

また、第7回理事長杯広島県バドミントン選手権大会は6月30日、県立体育館で開催され、結果は次のとおりでした。

◆男子I部シングルス

▽準決勝

矢野（日立）2－0永井（広大）
田上（NK）2－0杉之原（友クク）

▽決勝

矢野 2－1 杉之原

◆同ダブルス

▽準決勝

杉之原・柏木（友クク）2－1多田・田上（NKK）
永井・平川（広クク）2－1矢野・中山（日立）

▽決勝

杉之原・柏木 2－1 永井・平井

◆男子II部シングルス

▽準決勝

川上（日立）2－0山下（日製）
堀江（日製）2－1藤井（日化）

▽決勝

川上 2－0 堀江

◆同ダブルス

▽準決勝

岡山・藤井（日化）2－0笠井・下花（新興）
堀江・山下（日製）2－0前田・菅波（広大）

▽決勝

堀江・山下 2－0 岡山・藤井

◆女子シングルス

▽準決勝

広田（広大）2－0沖野（広大）
松本（広大）2－1藤井（広大）

▽決勝

広田・沖野 2－0 松本

◆同ダブルス

▽準決勝

松本・岩崎（広大）2－0宮地・三森（日立）
広田・沖野（広大）2－0大坪・藤井（広大）

▽決勝

広田・沖野 2－0 松本・岩崎

岡山県協会

昭和49年度岡山県社会人選手権大会は、7月14日、玉野スポーツセンターで開かれ、結果は次のとおりでした。

◆男子ダブルスA級

▽準決勝

上野・芳上（三井造船）2（15－4, 15－5）0 武田・角（倉工OB）
藤原・田丸（三井造船）2（15－8, 7－15, 15－11）1 小松・藤井（教育委）

▽決勝

上野・芳上 2（15－6, 15－7）0 藤原・田丸

◆男子シングルスA級

▽準決勝

芳上（三井造船）2（15－4, 15－3）0 藤原（三井造船）

上野（三井造船）2（15－7, 15－10）0 松井（三井造船）

▽決勝

芳上 2（15－9, 15－11）0 上野

◆女子ダブルス

▽準決勝

三田・寺見（クレ）2（15－2, 15－2）0 藤原・難波（川鉄）
松岡・櫂（三井造船）2（15－3, 15－1）0 土倉・根沢（三菱石油）

▽決勝

三田・寺見 2（15－0, 15－1）0 櫂・松岡

◆女子シングルス

▽準決勝

三田（クレ）2（11－4, 11－4）0 櫂（三井造船）
寺見（クレ）2（11－6, 11－0）0 木村（山陽OG）

▽決勝

三田 2（6－11, 11－8, 11－7）1 寺見

なお35才以上ダブルスは、明珍・西村（三井造船）が、同シングルスは西村（三井造船）が、男子ダブルスB級は、藤原・平田（三石・日旅）、同シングルスは金田（三井造船）が、それぞれ栄冠を手にした。

マスコミのとらえたバドミントン

情熱が学校を動かす

●宇和島南高グループ

始業前に練習にはげむ

『バシッ』『バシッ』鋭く風を切る音が聞こえ、白いシャトル（羽根）がチョウのように舞う。時にはフワリと、時にはピューッとネットの上を行ったり来たり。

ところは宇和島市文京町にある宇和島南高校の体育館。バドミントンのラケットを振っているのは同校の生徒たち。ほとんど毎日、午前八時前になると体育館に三人、五人……とやってくる。早速ネットを張り、シャトルを打ち合う。そして始業時間が近づく八時半ごろにはラケットを置く。

それぞれユニホームを着てはいるが、バドミントンの選手ではない。同校には『バドミントン部』という部はない。同好会？　いや違う。バドミントンの好きな生徒たちばかりの集まりだ。しかし、このグループには〝名〟がない。強いて呼ぶなら『宇和島南高バドミントン愛好者グループ』か。

同校でバドミントンが行われだしたのは、昭和四十三年ごろとか。青柳治教諭（体育）らの話によると『なんでも当時の体育関係の先生ら数人が始めたのがキッカケらしい』という。そして、教職員の多くがラケットを持つようになった。

ところが、いつの間にか生徒たちの間に流行しだした。その数はどんどん増えていった。そして四十五年の春、学校側に対して『バドミントン部』新設の申請が出された。希望者は五十人を超えていたという。しかし実現しなかった。

だが学校側は『せっかく生徒たちが楽しんでいるのだから』と、体育館を使用するのは黙認した。ネットも貸し与えた。ただし〝他の部活動の妨げにならないように〟という条件つきで。

そんなわけで早朝の練習が始まった。もちろんラケットやシャトルは自前。シャトルがいたむと、やっている者が費用を出し合う。手軽に出来ることなどから盛んになった。友達同士で、先輩から後輩へ。練習は受け継がれた。

清水房一君をはじめ酒栄忠臣、藤田博光、山口悦利、岡田満、浜田昌、兵頭光志君＝いずれも三年生＝らも、そうした仲間だ。みんな一年の時から始めたという。『好きだった』『面白そうだから』『今までやっていたのと違うスポーツがしたかった』『先輩に誘われて』など動機はさまざま。酒栄君らは北宇和郡津島町から通っている。バスで約五十分かかる。だから起床は六時半ごろ。最初は眠かったが、そのうち慣れた。

指導者は別にいない。先輩に教えてもらったり、各自が研究して腕をみがいた。毎日の練習で上達した。時々相手をする青柳先生らも『昨年から特にうまくなった。試合に出ても恥ずかしくないくらい』と感心する。

酒栄君らによると、実は昨年の春に二度目の〝部新設〟を要求したという。クラブ改廃委員会で討議されたが、やはりダメだった。

『現在、体育関係では十五の部が活動している。バドミントンが熱心にやっているのは知っている。なんとかしたいと思うが、経済的にも場所の点からもどうしようもない』森松幸夫教頭は悩みを語る。

彼らも先輩と同じように一度も試合に出ていない。三年近く続けながら。でも彼らの表情は明るい。〝束縛〟されずにやれたのがよかったのかも。愛好者は現在、約三十人くらいという。定かではない。女子が減ったらしい。四月以降、新しい愛好者がまた増えたそう。『やる以上、うまくやりたいし試合にも出たいんです』―やる気のある後輩もいる。『バドミントン部』が生まれるのは、まだ先かも知れない。しかし、きょうもまた体育館にはシャトルが威勢よく飛び交っている。

（愛媛新聞・7・17）

くふうしてみんなが楽しむ

●井波小バドミントンクラブ

体育館の三分の一の場所で、三十二人のクラブ員が、効果的に練習をするには、どのようにしたらよいか。これがなやみの種であった。みんなで考えをしぼって考えていたのが、体育館の幅いっぱいに、ネットの高さに合わせてひもをはって練習することである。

こうすれば規定の広さはとれなくても、なんとなく気分がでてくるのである。四チームに分かれてチームごとに練習を工夫する。少しの時間も利用してすぶりの練習をしている人もいる。そのうちに、三週間に一回は正式のコートを使って練習試合をしている。

みんなが参加するために試合形式はダブルスになっている。点数の数え方、サーブの位置などなかなかおぼえきれないで、まごついている。（六年、部長・斎藤智子）

（北日本新聞・7・25）



バドの魅力にとりつかれたママ

●仙台市長町バドミントン教室

まっすぐ打てれば一人前……

ラケットを握りしめた手が次第に汗ばんでくる。ネット越しに対戦相手をジッと見つめる。繰り出されたサーブをうまくはじき返す。そして激しい打ち合いが続く。お母さんたちは汗でびっしょりだ。このゲーム、簡単なようでなかなか難しい。

仙台市長町公民館の体育館に月一回集まるお母さんたち。バドミントンの魅力にとりつかれたハッスルママさんたちである。

「ラケットと羽根球さえあればどこででも出来る」という気軽さが受けてか、メンバーは四十人を数える。先生は県バドミントン協会副会長の荘司達治さん。荘司さんから基本プレーとルールをたたき込まれ、お母さんたちの腕は日を重ねるごとに上達しているとか。「〝球を正確に相手に打ち返す〟ことが出来るようになればもう一人前」と荘司さんは教えている。



ルールなどの〝講義〟を約三十分受けたあと、直ちにゲームに入る。コート三面を使ってのダブルスである。同程度の腕を持つペアが対戦するのがいつものパターンだ。「高校時代などにやってきた人と数ヵ月前にラケットを握った人の対戦では、試合が一方的になってしまう」（荘司さん）との配慮からこの形をとっている。

ただ当てればいいというが、当て方によって球は右にも左にも飛んでいく。相手に打ち込むスキを与えないようなサーブを心掛けねばならない。「ゲームの本当の面白さが味わえるのはこれから」とプレーにも一段と熱が込もる。

バドミントン教室の連絡先は同市門前町、長町公民館内、電話（48）5443。

（河北新報・7・19）

近所の人のふしぎそうな顔

●滋賀県・寺田　寿

最近、新聞などでよくみかけることばのひとつに「余暇」というのがある。しかし知人との会話の中には必ず「忙しい……」というのがでてくる。

日曜日ごとの大会・講習会・練習会などで、日曜日の休みがほしい私には「余暇」は皆無である。

近所の人は日曜日にはきまって朝早く出かける私に、ふしぎそうな顔であいさつをしてくれる。でもこのごろでは半日でも家にいると、それ以上にふしぎな生物をみる眼つきである。

これからはますます多忙になるだろうが、近所の人にせいぜいふしぎな生物としてあいさつされるようになろうと思っている。（筆者は滋賀県協会理事長）

（滋賀のスポーツ・第33号）

友好第一、勝敗第二

●二つの全道ママさん大会

52歳でも若さいっぱい

「ママがんばって」「まかしといて」と親子のやりとりが飛びかう体育館―。十日　札幌市内で二つの全道家庭婦人スポーツ大会が開幕した。バドミントンと卓球で、ともに今年が三回目。参加者が増えたこともあって日程が今回から二日間となったが、終日、ママさん選手の熱のこもったプレーが続いた。

○…北海高での道バドミントン協会、北海道新聞社共催の全道ママさんバドミントン大会は、午前十時から始まった。参加したのは百三十人。地元・札幌のほか遠く北見、函館からも泊まりがけでやってきた。最年長の武田久子さん（五二）＝空知管内栗山町＝をはじめみんな白のスカートやキュロットに身を包み、ぐんと若返った感じ。競技は団体と個人戦だが、初日は団体戦。十七チームの選手たちは真剣な表情で白い羽根を追うと、みるみる汗びっしょり。また試合前、幼児を背負ってあいさつを交わしたり、ゲーム中に「ママーッ」と子供が母親に駆け寄るほほえましい光景も見られた。

○…全道ママさん卓球大会（道卓球連盟主催、北海道新聞社後援）は午前九時二十分から市中央体育館で。道内各地の予選を勝ち抜いた百五十人が参加した。こちらも初日は団体戦。二十チームが出場したが、色とりどりの短パン姿の選手たちは、スタンドに詰めかけたご主人や子供たちの声援を受けてハッスル。ゲームが終わると、にこやかに握手をかわして「来年もまたやりましょう」―。三年前、中国卓球チームが道内に残していった〝勝敗より友好〟のシーンがいっぱいだった。

【バドミントン】▽準決勝
札幌A 2―0 函館B
函館A 2―1 札幌B
▽決勝
札幌A 2―1 函館A

【卓球】▽準決勝
旭川若妻会 3―1 千歳
札幌カトレア 3―1 札幌中央クラブ
▽決勝
札幌カトレア 3―1 旭川若妻会

（北海道新聞・8・11）

■年間予約購読のおすすめ

本誌の購読は、年間予約が便利です。本誌は**一部定価二百二十円**で、一年間十二冊は二千六百四十円となりますが、予約購読をなさいますと、**二千四百円**となります。送料は当方で負担いたします。

お申し込みは、本誌はさみ込みの振替用紙に必要事項をご記入のうえ、郵便局で手続していただくか、現金書留で代金をお送りください。その際、必ず何号からの申し込みかを明記してください。

〈宛先〉〒150 東京都渋谷区神南一ノ一ノ一
岸記念体育会館内
日本バドミントン協会
バドミントン界編集部

■事務局通信

●本会事務局員の異動について

過ぐる6月20日付を以って、鈴木美知子が退職し、8月19日付にて、永尾シズノが就職いたしました。

今後共、一層のご指導を賜わりますよう、お願い申し上げます。

●本会事務局への通話に関するお願い

本会事務局電話機配置の都合により、小職宛通話は、お手数ながら、つぎにて、お願い申し上げます。

記

電話番号　03－467－3111（内線351）

日本バドミントン協会　事務局長　村山幸雄

編集室から

○…第二回訪中大会のもようを中心にお届けいたします。中国でも若手の台頭がみられるようになってきたようです。

○…一方日本の将来を担う、高校生の祭典インターハイのようすも、多くの写真とともにお伝えします。

○…第7回アジア大会では、日本選手の活躍が期待されましたが、団体戦では、男女とも予想を下回る成績だったようです。

しかし、男子では伏兵パキスタンの登場、女子では、インドネシアの復活など、バドミントンそのもののレベルも上がってきたのではないかと思います。

飯野・土田・西尾といった若手選手にはよい体験となったでしょう。今後に生かしてほしいものです。

○…**関東学生秋季リーグ戦**が、男子＝10月2日（板橋区体育館）7日、8日（駒沢体育館）11日（江戸川区総合体育館）18日（駒沢体育館）、女子＝10月1日（中央区総合体育館）2日（板橋）15日、17日、22日（中央区）で開かれます。ご観戦を。

○…次号は、全英選手権大会における、ルディ・ハルトノ、ギルクス夫人、P・グナランらのフォームを分析し、新しい読物もと考えています。

全国教員養成大学バドミントン研修会開催要項

●開催期日＝10月10日（木）から13日（日）まで

●開催場所＝東京都渋谷区代々木山谷346・オリンピック記念青少年総合センター・TEL03－467－7201

●参加資格＝教員養成大学の学部または学科（体育専攻も含む）に籍をおく学生で、各都道府県バドミントン協会長の推せんを受けたもの各4名。ただし、特に主管団体（日本バドミントン協会指導委員会）で認められた場合はこの限りでない。

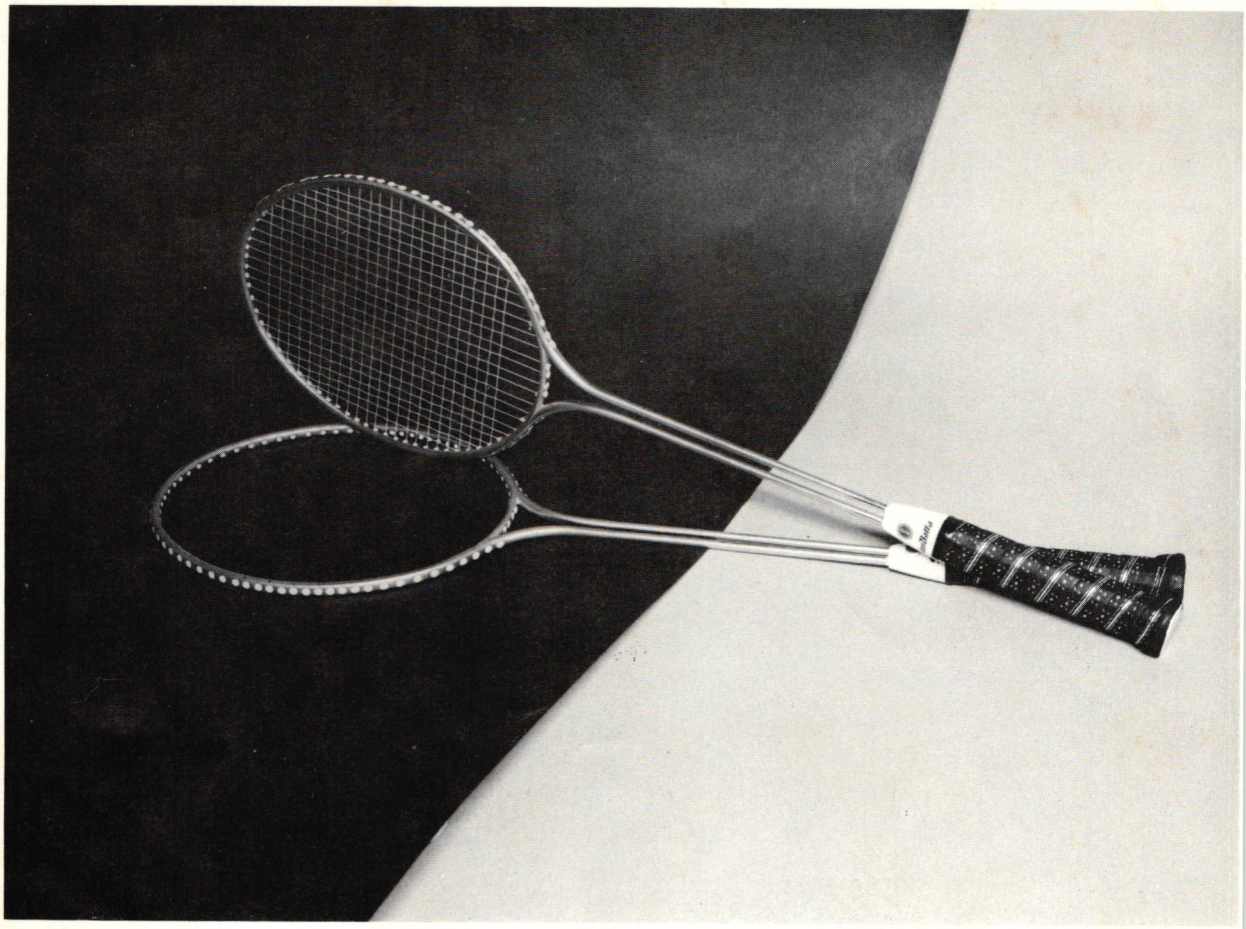
●申込方法＝各都道府県協会を通じて、参加者負担金一人三千円を添え、9月30日までに日本バドミントン協会指導委員会宛申し込むこと（申込金は返済しない）。

●経費＝本研修会は文部省と日本バドミントン協会の経費で運営される。したがって旅費（学割普通急行料金往復）宿泊費（三泊四日）は主催者側で負担する。

備考＝(1)問合せ事項は、日本協会指導委員会委員長とする。

【バドミントン界】第59号
昭和49年8月25日　印刷
昭和49年9月1日　発行
編集兼発行人　秦　浩
発行所　東京都渋谷区神南一の一の一　岸記念体育館内　日本バドミントン協会
電話　四六七・三一一一（内線）二五一
郵便番号・一五〇　四六七・七〇九五（直通）
振替口座・東京三二一九三
印刷所　東京都豊島区南大塚二一二九　明宏印刷株式会社
定価　一部二百二十円

©無断転載を禁ず



ALL STEEL RACKET SunBatta TWIN SHAFT

究明され！
完成された！
S-74
ALL ROUND

プレーヤーが長い間求めていたオールスチールが誕生しました。
従来のオールスチールラケットの利点及び欠点をあらゆる角度から究明され改良をし今ここに完成され皆様の目の前に現われました。
ツインシャフトの採用によって、フレームとシャフトとのひねりが最小限に押えられ自由自在なショットを楽しむ事が出来るでしょう。
アタックによし、レシーブによし、それがS-74オールラウンドです。
◇フレームのみ（ケース付）￥ 5,000

SunBatta TOKYO

サンバタ

パワーラケット誕生!!

——ハードヒッターにピッタリです!!

オールマン

No.B-73



精選された木材の画期的加工技術を開発。
5プライフレームの合板精度と、ロングで強靱なツルーテンパー・クローム モリブデンシャフトとの比類ない結合から生れた、かってないパワーとバランス。
一瞬の攻撃力にかけるプレイヤー待望の力強いラケットがついに誕生しました。
世界の檜舞台で信頼され、活躍するカワサキの新製品〝オールマン〟をぜひお試しください。

K
TOKYO

kawasaki racket

河崎ラケット工業株式会社
東京都台東区台東2-28-5 TEL(831)9161(代表)